GS
Grand Seiko

MECHANICAL

OPERATING INSTRUCTIONS

SEIKO WATCH CORPORATION
www.seiko-watch.co.jp/gs
9S BSJ9SCCB-1409
Printed in Japan

この度は弊社製品をお買い上げいただき、
誠にありがとうございました。
ご使用の前にこの説明書をよくお読みの上、
正しくご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、この説明書はお手元に保管し、必要に応じてご覧ください。

金属バンドの調整は、お買い上げ店にご依頼ください。
ご贈答、ご転居などにより、お買い上げ店での調整が受けられない場合は、弊社お客様相談窓口へご依頼ください。お買い上げ店以外では有料もしくはお取扱いいただけない場合があります。

商品に傷防止用の保護シールがはられている場合があります。
必ずはがしてお使いください。はられたままにしておくと、汚れ、汗、ゴミ、水分などが付着してさび発生の原因となります。

目　次

■精度に関するご注意……2
■製品取扱上のご注意……2
■はじめに～機械式時計について～……4
・機械式時計の特徴とは……5
・機械式時計と長く付き合うために……7
■キャリバーNo.ご確認のお願い……10
■各部の名称……11
■ご使用方法……13
・9S85、9S65の場合……14
・9S86、9S66の場合……17
※世界の主な地域の時差一覧……23
・9S64の場合……24
・9S61の場合……26
■グランドセイコー規格について……27
・グランドセイコー（スペシャル）規格検定合格証明書について……28
・機械式時計の精度についてのご注意事項……29
■ご注意いただきたいこと……30
・アフターサービスについて……30
・保証について……31
・お手入れについて……32
・バンドについて……33
・防水性能について……34
・耐磁性能について（磁気の影響）……35
・ルミブライトについて……36
・こんな時には……36
■製品仕様（ムーブメント関係）……37

■精度に関するご注意

○ 機械式時計の携帯使用時の精度は、お客さまそれぞれのご使用条件（一日の腕の運動量によるぜんまいの巻上げ具合、温度環境、姿勢[時計の向き]など）によって変化するものです。従いまして、お客さまが実際に携帯使用される場合の精度はグランドセイコー規格に定められた各項目の数値とは異なることがあります。
○ お客さまが携帯使用される場合の精度は、一日あたり－1～＋10秒（9S86、9S85の場合は－1～＋8秒）の範囲を目安としております。
携帯使用時の精度を正しく判断するには、一日のみではなく、通常のご使用状態で一週間から十日間程度お使いになって進み／遅れをみてください。その一日あたりの平均値が上記目安の範囲を超える場合は、調整させていただきます。（ご購入後2年以内は無料、それ以降は有料。詳しくはP.28およびP.31をご覧ください。）
○ 同梱のグランドセイコー規格検定合格証明書は、ケース組込み前のムーブメント単体の状態で、製造工場内の人工的に管理された環境の下で計測した実測値が、グランドセイコー規格検定に合格したことを証明するものです。
紛失された場合、または修理・調整後の再発行はできません。

■製品取扱上のご注意

⚠警告 取り扱いを誤った場合に、重症を負うなどの重大な結果になる危険性が想定されることを示します。

次のような場合、ご使用を中止してください

○ 時計本体やバンドが腐食などにより鋭利になった場合
○ バンドのピンが飛び出してきた場合
※ すぐに、お買い上げ店・弊社お客様相談窓口にご連絡ください。

乳幼児の手の届くところに、時計本体や部品を置かないでください

部品を乳幼児が飲み込んでしまうおそれがあります。
万が一飲み込んだ場合は、身体に害があるため、ただちに医師にご相談ください。

⚠警告

この時計はスキューバダイビングや飽和潜水には絶対に使用しないでください

スキューバダイビングや飽和潜水用の時計に必要とされる過酷な環境を想定した様々な厳しい検査を行っていません。
専用のダイバーズウオッチをご使用ください。

⚠注意 取り扱いを誤った場合に、軽症を負う危険性や物質的損害をこうむることが想定されることを示します。

以下の場所での携帯・保管は避けてください

○ 揮発性の薬品が発散しているところ(除光液などの化粧品、防虫剤、シンナーなど)
○ 5℃～35℃を外れる温度に長期間なるところ ○ 高湿度なところ
○ 磁気や静電気の影響があるところ ○ ホコリの多いところ
○ 強い振動のあるところ

アレルギーやかぶれを起こした場合

ただちに時計の使用をやめ、皮膚科など専門医にご相談ください。

その他のご注意

○ 金属バンドの調整は専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
手や指などにけがをする可能性があるほか、部品を紛失する可能性があります。
○ 商品の分解・改造はしないでください。
○ 乳幼児に時計が触れないようにご注意ください。
けがやアレルギーをひき起こすおそれがあります。
○ 提げ時計やペンダント時計の場合、ひもやチェーンの取り扱いにご注意ください。
衣類や手・首などを傷つけたり、首を締めたりするおそれがあります。
○ 時計を外してそのまま置くと、裏ぶたとバンドや中留が擦れて、裏ぶた表面に傷が付く可能性がありますのでご注意ください。時計を外した場合は、柔らかい布等を挟んで置くことをお勧めします。

⚠注意

水分のついたまま、りゅうずやボタンを操作しないでください

時計内部に水分が入ることがあります。
※ 万が一、ガラス内面にくもりや水滴が発生し、長時間消えない場合は防水不良です。
お早めに、お買い上げ店・弊社お客様相談窓口にご相談ください。

水や汗、汚れが付着したままにしておくのは避けてください

防水時計でもガラスの接着面・パッキンの劣化やステンレスがさびることにより、防水不良になるおそれがあります。

入浴やサウナの際はご使用を避けてください

蒸気や石けん、温泉の成分などが防水性能の劣化を早めることがあります。

直接蛇口から水をかけることは避けてください

水道水は非常に水圧が高く、日常生活用強化防水の時計でも防水不良になるおそれがあります。

■はじめに ～機械式時計について～

この度はグランドセイコー・メカニカルウオッチ（機械式時計）をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

まずは、そっと手にとり、その鼓動に耳を傾けてください。
コチコチコチという、微かでやさしく、
けれども厳かな響きが聞こえてくると思います。
それは、長年にわたり受け継がれてきた
職人たちの技と魂の結晶ということができるでしょう。
厳選された数多くの部品を、熟練の技で一つひとつ、丹念に組み上げ、
生命を吹き込まれた証の音なのです。

さて、機械式時計は、正確さにおいて、
確かにクオーツ時計にはかないません。
しかし、人の手による精度の追求、
そこには職人たちの心と叡智がギッシリとつまっています。

複雑で繊細で、しかも人間味あふれる機械式時計。
私たちは、その限りない魅力を多くの方々に知っていただきたく、
精度に関わるポイントを中心に、まとめました。
グランドセイコーと共に、末永く
素敵な時間を過ごしていただけることを願いながら。

セイコーウオッチ株式会社

クオーツと機械式。どう違う？

身近な例でお話しましょう。

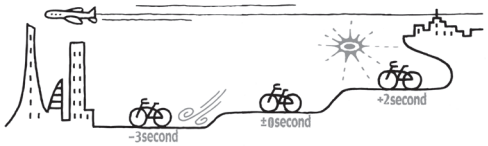
日頃慣れ親しんでいるクオーツ時計。
これは、いわば、コンピュータで制御された飛行機のようなもの。
電池とICと水晶によって、電気的にとても正確な時間をつくりだします。

使用している間には多少の誤差も生じますが、それは私たちの一日一日の生活の中では分かりにくい程小さなものです。

クオーツが飛行機だとすると、
機械式は自転車に似ているでしょうか。
すべての部品が機械的に働きあい、
時間を刻み出しています。
したがって、周囲の環境にも大きく影響されるのです。

暑ければ一般に遅れがちになり、
パワー不足（ぜんまいの巻き上げ量が少ない）のときは精度が不安定になります。
時計の姿勢（向き）が変わると、精度も変わります。

その誤差は、
私たちの一日一日の生活の中でもわかる位に大きくなることもあるのです。



メカの精度は日差。

一日あたりの時計の進み・遅れの実測値。
それを、日差と言います。

機械式の精度は、この日差で表示されるのが普通です。

機械式の精度は、ご使用条件や外部環境の違いなどで、毎日微妙に変化します。

そのため、ある一日だけの進み／遅れを見ただけでは、
その時計の精度の実力を判断できません。

一週間から十日程度にわたって進み／遅れを見、
その平均値から判断するのが正しいのです。

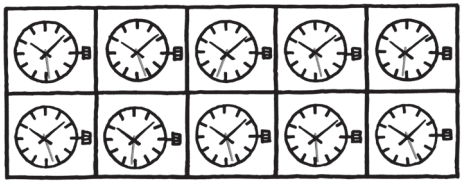
ちなみに、クオーツの精度は、月差や年差が一般的。
1か月あるいは1年間でのトータルの誤差をクオーツの精度と呼んでいます。

静的精度と携帯精度。

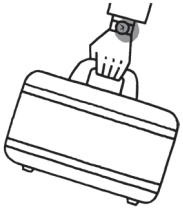
機械式時計の精度は、
腕の動きによるぜんまいの巻き上げ量、
温度、姿勢（時計の向き）などによって変化します。

そこで、その機械式時計の実力を環境に左右されず、公平に示すために、
ケースに組み込む前のムーブメント単体の状態で、
一定条件に管理された環境の中
何日もかけて進みや遅れを測定します。
その実測値を「静的精度」と呼んでいます。

スイスのクロノメーター検定もグランドセイコー規格検定*も、
その規格値は、静的精度なのです。
*グランドセイコー規格検定について詳しくはP.28をお読みください。



この数値、
機械式時計の実力を、環境の変化に影響されずに
公平に評価・表示するために、人工的に管理された環境で計測したデータなので、実際にお使いいただいた時の精度
「携帯精度」とは異なります。



環境の違いによって、
毎日微妙に変化する、機械式時計の精度。
それは、まるで生き物にも似て、
ひとつの面白さになっているんですね。

グランドセイコーの携帯精度は、−1 ～+10秒（9S86、9S85は+8秒）を目安にしています。この目安を超える場合には、調整させていただきます。（「日本国内のみ」ご購入後2年以内は無償）精度調整をなるべく正しく行うには、お客様のご使用状況、そのときの具体的な進み／遅れが重要な情報になります。したがいまして、ご依頼の際には同時に次の内容についてもお知らせくださいますようお願いします。

（1）ご使用一週間～十日間での一日あたり平均の進み・遅れ
　　例：「平均+11秒」など
（2）上記使用期間中の、一日のおおよその着用時間
　　例：「約10時間」など
（3）腕から外して置いておく時の時計の向き
　　例：「文字板を上にして平らに」「りゅうずを上にして立てて」など

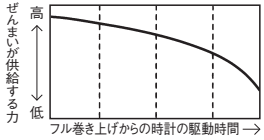
機械式時計と長く付き合うために　ルールその1

決まった時間にぜんまいを巻く。

物ごとすべてにルールがあるように、
ぜんまいの巻き方にもルールがあります。

初耳ですか？
でも、覚えてくださいね。

機械式時計のエネルギーであるぜんまい。
充分に巻かれた状態が、最も安定した
エネルギーを各部品に供給でき、
時計の精度も最も安定するのです。



自動巻きでも、精度が安定していないな、と感じるときは、時計を振るか、りゅうずを30回程度回して、ぜんまいを巻き足してください。
デスクワークなどが多く運動が少ない時は、ぜんまいが充分に巻き上がらないものです。

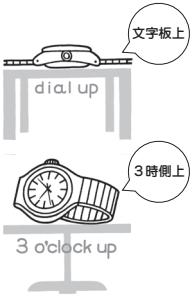
手巻きの場合は、
毎日同じ時刻にりゅうずを30回程度回して、ぜんまいを充分に巻き上げてください。

より良い精度を保つためには、
1日1回、決まった時間に
ぜんまいを巻き上げる。
できるだけ、守ってくださいね。

たとえば、
起床時やお昼休みなどをぜんまいを巻く時間と決めておくのも良いでしょう。

機械式時計と長く付き合うために　ルールその2

時計の置き方は、このように。



一日24時間の生活の中、ほぼ半分は時計を腕から外しておくでしょう。その間の精度も含めたものが「携帯精度」です。

腕から外した機械式時計。
さぁ、どのような姿勢で置いておけばよいのでしょうか。

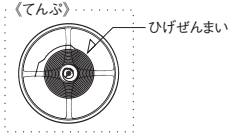
機械式時計は、姿勢（向き）の違いによって、進み／遅れが変わります。
進み気味になる向きもあれば、そうならない向きもあります。

夜、寝ている間など腕から外しておくときは、文字盤を上にしたり、りゅうずを上にしたり、様々な向きで7～8時間置いてみて、あなたが腕に着用しているときの進み／遅れを少なくできるような置き方を見つけてください。

機械式時計と長く付き合うために　ルールその3

暑さ寒さで精度も変わる。

髪の毛なみに細い
約0.1ミリの金属を巻いたもの。
それが、機械式時計の精度の要
ひげぜんまいです。

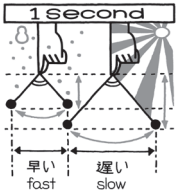


温度変化によって伸び縮みする
金属本来が持つ特性は、

ひげぜんまいにもあてはまり、
時計の精度に影響を与えます。

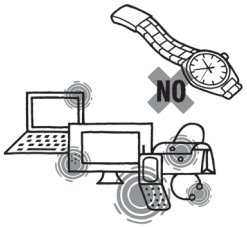
つまり、暑さの中では、
ひげぜんまいが伸び、
遅れがちになり

寒さの中では、ひげぜんまいが
縮み、進みがちになるのが
一般的です。



機械式時計と長く付き合うために　ルールその4

磁気の強い場所に近づけない。



時計を外しておくとき、携帯電話の隣や、
パソコンやテレビの上に置いていませんか。
バッグの中に、携帯電話と一緒に入れていませんか。

時計は磁気が嫌いです。
磁力の影響で、進んだり遅れたりすることがあります。

機械式時計をより良い精度でお使いいただくには、磁力に長時間近づけないことが大切です。

特に携帯電話やテレビ、パソコンのスピーカー部は、強い磁力を発しています。
ほかにも、磁気ネックレスやハンドバックの口金、冷蔵庫のマグネット部分など、私たちの日常には、強い磁力を発するものがたくさんあります。

ご注意ください。

機械式時計と長く付き合うために　ルールその5

強い衝撃は避ける。

ゴルフでも
テニスでも
野球でも

腕に強いインパクトがかかる
スポーツをする時は、
機械式時計をはずしてください。

理由があります。

例えば、ゴルフのインパクトの瞬間、
クラブがボールに当たる衝撃は約1トン。

その衝撃が手首に伝わり、機械式時計内部の微細な部品に影響を与えるのです。

時として、部品を変形させ
壊れることもあります。

ナイスショットは、時計にとって、
バッドショックになるんですね。

機械式時計と長く付き合うために　ルールその6

3 年ごとにオーバーホール。

愛は3年ごとに。
オーバーホールのお話です。

電池交換のいらない機械式時計でも、
メンテナンスは欠かせません。

3年程度に1回は、
分解点検・掃除に出してあげてください。

つけ始めれば一度も休むことのない
時計です。

しかも機械式時計は、クオーツ時計に
比べて歯車に伝達される力が強いため、
部品が摩耗していたり、潤滑油が乾き、
不足してる箇所があるかもしれませんね。

特に、使い始めの3年間は

それぞれの部品が馴染む期間で、部品
同士が当たることで出る磨耗紛なども
多いのです。

最初の3年目のオーバーホールが
その後の機械式時計の一生を決めます。

3年ごとのオーバーホール
どうぞ、忘れずに。

それは、時計への愛
といえるかもしれません。

■キャリバー No.ご確認のお願い

キャリバーについて

ムーブメント（時計の機械体）の型式を表す４桁の番号です。グランドセイコーには専用のキャリバーが搭載されており、メカニカルキャリバーは９S、スプリングドライブキャリバーは９R、クオーツキャリバーは９Fから始まる４桁で表されます。

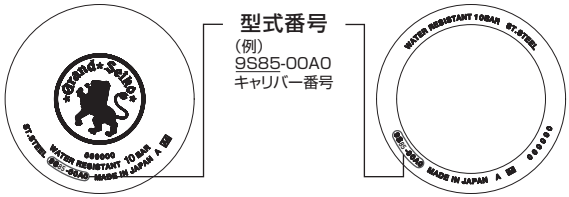
※ クオーツキャリバーは他にも8J、4Jから始まる型式もございます。

確認方法

裏ぶたに記載の型式番号４桁がキャリバー番号となります。

機械式モデルの場合、付属の「グランドセイコー規格検定合格証明書」に「キャリバー No.」の欄がありますので、こちらでもご確認いただけます。

〈通常の裏ぶたの場合〉



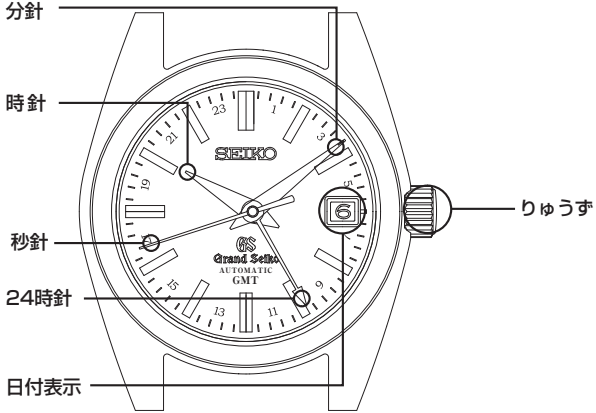
〈シースルー仕様裏ぶたの場合〉

※ 上記の図は例であり、お買上げいただいた時計とは異なる場合があります。

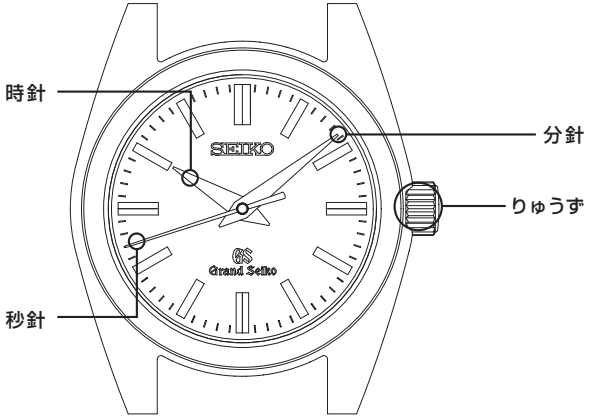
■各部の名称

9S85、9S65

9S86、9S66



9S64、9S61



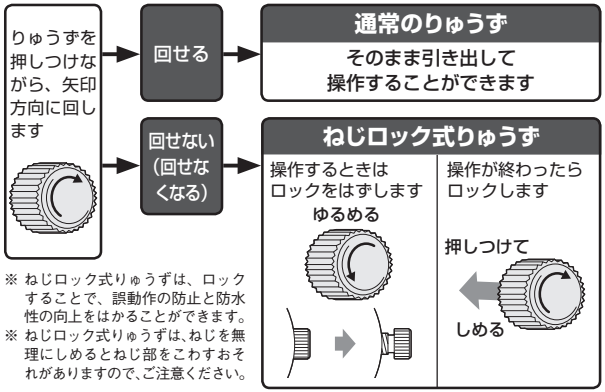
※ 表示の位置やデザインは、モデルによって異なる場合があります。

■ご使用方法

日本語

りゅうずについて

りゅうずには、通常のものとロックできる構造のものの、2つのタイプがあります。お使いの時計のりゅうずをご確認ください。



※ ねじロック式りゅうずは、ロックすることで、誤動作の防止と防水性の向上をはかることができます。
※ ねじロック式りゅうずは、ねじを無理にしめるとねじ部をこわすおそれがありますので、ご注意ください。

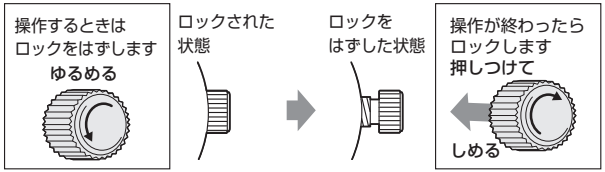
ねじロック式りゅうずについて

誤作動の防止と防水性の向上のために、使わないときはりゅうずをねじでロックできる構造です。

○ りゅうずを操作するときはロックをはずしてください
○ 操作が終わったらロックしてください

[ロックのはずしかた]
りゅうずを左（下方向）に回してください。ねじがゆるんで、りゅうずが操作できるようになります。

[ロックのしかた]
りゅうずを時計本体に軽く押しつけながら、右（上方向）に止まるところまで回してください。



※ ロックするときは、ねじのかみあい具合に注意してゆっくりと押しながら回してください。無理に押し込むと、ねじ部（ケース）を壊す恐れがありますのでご注意ください。

ご使用方法（9S85、9S65の場合）

ぜんまいの巻きかた

○ この時計は、自動巻式機械時計（手巻つき）です。
○ ぜんまいは時計を腕につけた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くこともできます。
○ 止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずを回しぜんまいが十分に巻かれた状態にしまして、日付と時刻を合わせてから腕にお付けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず0段位置で右方向（12時方向）にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向（6時方向）では空回りするようになっています。9S85の場合はりゅうずを約45回転、9S65の場合は約60回転すれば十分に巻き上げることができます。また、ぜんまいはフル巻上げ状態でスリップするようになっております。ぜんまいを切る心配はありませんが過剰な操作はお控えください。

※ ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、1日10時間以上携帯することをお勧めします。また、時計を腕につけないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずを回しぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

⚠ご注意

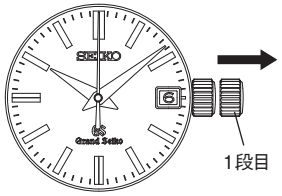
○ 時刻表示が午後10時から午前1時までの間､日付の修正をしないでください。この時間帯に日付を修正しますと、翌日になっても日付が切り変わらないことや、故障の原因となる場合があります。
○ 機械式時計は輪列の機構上、時刻を合わせる際には、針をいったん正しい時刻よりやや遅らせておき、それから進めて合わせるようにしてください。

時刻･日付の合わせかた

この時計には、日付表示機能がついています。24時間に1回日付を一日分送るようになっています。
日付は､「午前0時」ごろ送るようになっています。よって、午前午後をまちがえて時刻合わせをしてしまいますと､お昼の｢12｣時ごろに日付が変わってしまいます。

① りゅうずを1段目まで引き出してください。
（ねじロック式の場合は、ロックを解除してください。）
② りゅうずを右方向（12時方向）に回すことで、日付の修正ができます。
まず、合わせたい日の前日の日付に合わせます。

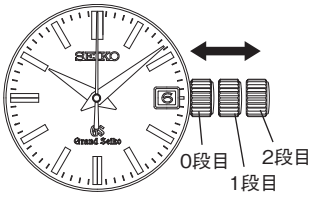
【例】合わせる日付が「6日」の場合、
「5日」に合わせます。



③ りゅうずを2段目まで引き出します。
秒針が「12時」の位置にきたときに引き出してください。（秒針が止まります。）
りゅうずを、針が進む方向にまわし、日付が今日の日付になるまでまわしてください。　日付が変わると「午前」です。さらに進めて現在の時刻に合わせます。

④ 時報と同時にりゅうずを0段目まで押し込むと動き出します。

※ 時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

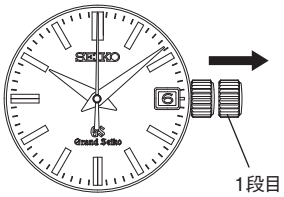


⚠ご注意　ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。

月末の日付修正について

2月（1カ月が28日、うるう年は29日）と小の月（1カ月が30日）では日付の修正が必要になります。

【例】小の月の翌月1日の朝、日付を修正する場合
「1日」ではなく「31日」が表示されています。りゅうずを1段目に引き出してください。りゅうずを右回転させ、日付を「1日」に合わせ、りゅうずを押し込んでください。



⚠ご注意 ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。

ご使用方法（9S86、9S66の場合）

ぜんまいの巻きかた

○ この時計は、自動巻式機械時計（手巻つき）です。
○ ぜんまいは時計を腕につけた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くこともできます。
○ 止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずを回しぜんまいが十分に巻かれた状態にしまして、日付と時刻を合わせてから腕にお付けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず0段位置で右方向（12時方向）にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向（6時方向）では空回りするようになっています。9S86の場合はりゅうずを約45回転、9S66の場合は約60回転すれば十分に巻き上げることができます。また、ぜんまいはフル巻上げ状態でスリップするようになっております。ぜんまいを切る心配はありませんが過剰な操作はお控えください。

※ ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、1日10時間以上携帯することをお勧めします。また、時計を腕につけないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずを回しぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

時刻・カレンダーを合わせるには

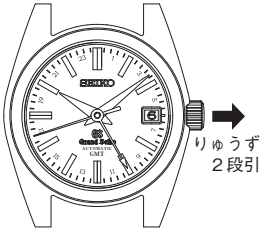
○ 時刻・カレンダーを合わせるときは、２４時針と分針を最初に合わせ、その後で時針とカレンダーを合わせます。
○ 必ずゼンマイが巻き上げられた状態で、時刻合わせをしてください。

時刻の合わせかた

① ぜんまいが巻き上げられた状態で、時計が動いていることを確認します。
※ 日付・時刻を合わせるときは、必ず時計が動いている状態で行ってください。

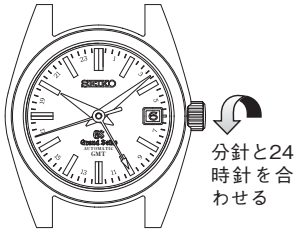
② りゅうずのロックをはずしてください。
⇒ ねじロック式りゅうずについて
P.13 参照

③ 秒針が０秒位置にあるときにりゅうずを２段目まで引き出し、秒針を止めます

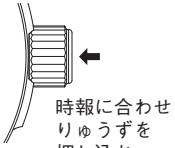


④ 時計回りに針が進むように、りゅうずを左に回し、分針と２４時針に注目しながら時刻を合わせます。
合わせたい時刻の手前から、分針をゆっくり進めて合わせてください。

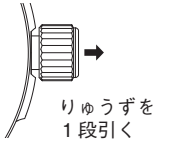
※ 時針が、合わせたい時刻とは異なる時刻を指しているときや、時針の位置によってカレンダーの日付が変わることがありますが、まず先に、分針と２４時針を合わせましょう。



⑤ 時報などに合わせてりゅうずを押し込みます。
※ これで２４時針、分針、 秒針が現在時刻に合った状態になります。

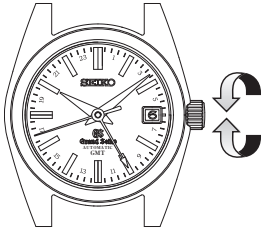


⑥ 次に、時針とカレンダーを合わせます。りゅうずを１段目まで引き出してください。

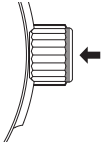


⑦ りゅうずを回して時針を合わせます。りゅうずを回したときにカレンダーの日付が変わるところが午前０時です。午前・午後を確認して時刻を合わせましょう。
カレンダーを合わせたいときは、ここで一緒に合わせてください。

※ りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ日付修正が少ない方向で合わせてください。
※ りゅうずを回すときは、時針の１時間単位の動きを確認しながら、ゆっくりと回してください。
※ 時針を合わせているときに、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。



⑧ りゅうずを押し込むと操作は完了です。
りゅうずをロックしてください。
⇒ ねじロック式りゅうずについて P.13 参照



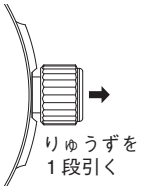
カレンダーの合わせかた

カレンダーを合わせるには、時針を2周させて1日ぶんの日付修正を行います。
時針を、時計回りに2周（２４時間ぶん）回すと「日を送る」ことができます。
逆に回すと「日を戻す」ことができます。
※ 小の月（2、4、6、9、11月）が終わった翌日などにカレンダー合わせを行ってください。

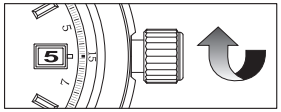
① ぜんまいが巻き上げられた状態で、時計が動いていることを確認します。
※ 日付・時刻を合わせるときは、必ず時計が動いている状態で行ってください。

② りゅうずのロックをはずしてください。
⇒ ねじロック式りゅうずについて P.13 参照

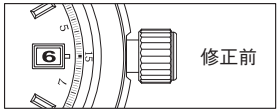
③ りゅうずを１段目まで引き出してください。



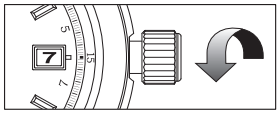
④ りゅうずを回して、時針を２周させるごとに、日付が「１日ぶん」修正されます。
りゅうずを回したときにカレンダーの日付が変わるところが午前０時です。
午前・午後を確認して合わせましょう。



右（上方向）に回す：
時針を２周させると日付が１日送られます。



※ りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ修正が少ない方向で合わせてください。
※ りゅうずはゆっくりと回してください。
※ 時針を合わせているとき、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。



左（下方向）に回す：
時針を2周させると日付が1日戻ります。

⑤ 操作が終わったら、時刻が合っているかどうかを確認して
りゅうずを押し込んでください。これで操作は完了です。
りゅうずをロックしてください。
⇒　ねじロック式りゅうずについて　P.13 参照

※ この操作では時針とカレンダーが連動して動きます。
そのため、時刻の午前・午後が合っていないと、カレンダーが半日ずれることがあります。
※ りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ日付修正が少ない方向で合わせてください。
※ りゅうずを回すときは、時針の1時間単位の動きを確認しながら、ゆっくりと回してください。
※ 時針を合わせているときに、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。

24時針の使いかた

24時針には以下の２つの機能があります。

タイプ１ :午前・午後を区別する
時分針が示す時刻を24時間制で表示する（通常の使いかた）

タイプ２ :デュアルタイムとして使う
時差修正機能を使って、時分針が示す時刻とは異なる地域の時刻を表示する（１時間以上の時差がある地域の時刻）

時分針、24時針ともに
日本時間(午前10時)

時分針:日本時間(午前10時)
24時針:ニューヨーク（午後8時）

時差修正機能について

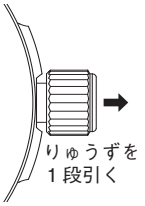
時差のある地域へ移動するときなどに、簡単に目的地の時刻に合わせられます。
操作のときに時計を止めることがありません。
時針は目的地の時刻を示し、２４時針は元の地域の時刻を示します。
時針はカレンダーと連動しているため、正しい操作が行なわれると目的地の日付を表示します。

時差修正機能の使いかた

① ぜんまいが巻き上げられた状態で、時計が動いていることを確認します。
※ 操作は、必ず時計が動いている状態で行ってください。

② りゅうずのロックをはずしてください。
⇒　ねじロック式りゅうずについて　P.13 参照

③ りゅうずを１段目まで引き出してください。



④ りゅうずを回して目的地の時刻に合わせます。
午前・午後、日付を確認して合わせましょう。
※ この操作では時計とカレンダーが連動して動きます。
時刻の午前・午後が合っていないと、カレンダーが半日ずれることがあります。
⇒ 世界の主な地域の時差一覧 P.23

右（上方向）
に回す：
プラス
1時間

左（下方向）
に回す：
マイナス
1時間

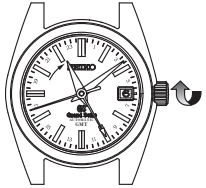
※ りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ修正が少ない方向で合わせてください。
※ りゅうずを回すときは、時針の１時間単位の動きを確認しながらゆっくりと回してください。
※ りゅうずを回したときにカレンダーの日付が変わるところが午前０時です。
※ 時針を合わせているとき､他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。

⑤ 操作が終わったら、時刻が合っているかどうかを確認して
りゅうずを押し込んでください。これで操作は完了です。
りゅうずをロックしてください。
⇒ ねじロック式りゅうずについて P.13 参照

※ ＰＭ９：００～ＡＭ１：００の時間帯に時刻を合わせるときは、
時針をＰＭ８：００まで戻してから合わせてください。

目的別の使いかた

時差修正機能を使うと、２つの地域の時刻を表示させるデュアルタイムとしてお使いいただけます。表示のしかたは２通りあり、目的によって使い分けることができます。


【例１】
時針・カレンダー：A地域（日本）
２４時針：B地域（ニューヨーク）
２４時針を合わせた後で、時針を合わせます。

【例１】
時針・カレンダー：B地域（ニューヨーク）
２４時針：A地域（日本）

世界の主な地域の時差一覧

都市名	世界標準時(UTC)	日本標準時(JST)	その他の地域
東京	+9:00	±0:00	ソウル
北京	+8:00	-1:00	香港、マニラ、シンガポール
バンコク	+7:00	-2:00	ジャカルタ
ダッカ	+6:00	-3:00	
カラチ	+5:00	-4:00	タシケント
ドバイ	+4:00	-5:00	
ジッダ	+3:00	-6:00	ナイロビ、メッカ
★カイロ	+2:00	-7:00	★イスタンブル、★アテネ
★パリ	+1:00	-8:00	★ローマ、★ベルリン、★マドリード
★ロンドン	±0:00	-9:00	★カサブランカ
★アゾレス諸島	-1:00	-10:00	
★リオデジャネイロ	-3:00	-12:00	
★サンティアゴ	-4:00	-13:00	
★ニューヨーク	-5:00	-14:00	★モントリオール
★シカゴ	-6:00	-15:00	★メキシコシティ
★デンバー	-7:00	-16:00	
★ロサンゼルス	-8:00	-17:00	★サンフランシスコ
★アンカレッジ	-9:00	-18:00	
ホノルル	-10:00	-19:00	
ミッドウェー島	-11:00	-20:00	
★ウェリントン	+12:00	+3:00	フィジー
ヌメア	+11:00	+2:00	
★シドニー	+10:00	+1:00	グアム

※ ★印の地域ではサマータイムが導入されています。
※ 各地域の時差及びサマータイムの有無は、2014年９月時点の情報に基づいております。これらは、国または地域の都合により変更される場合があります。

ご使用方法（9S64の場合）

ぜんまいの巻きかた

○ この時計は、手巻機械式時計です。
○ ぜんまいを十分に巻き上げるために必要なりゅうずをまわす回数は、次表を目処にしてください。

ぜんまいを毎日巻き上げてご使用する場合	りゅうずを約20回転まわすことにより十分巻き上げることができます。
3日以上巻き上げなかった場合	りゅうずを約60回転まわすことにより十分巻き上げることができます。

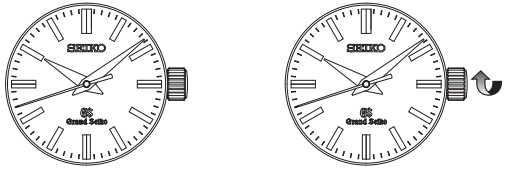
○ ぜんまいが十分に巻き上げられた状態での可動時間は約72時間です。
○ ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になります。より良い精度でご使用いただくためには、ぜんまいを毎日一定の時刻に十分に巻いてご使用されることをおすすめします。

一般的な多くの手巻時計は、りゅうずをまわしてぜんまいの巻き上げが完了すると、りゅうずはそれ以上回転しません。機種9S64は巻き上げが完了してもりゅうずは止まらず回転させることができますが、りゅうずを巻く感触が重くなるように機構上で配慮してあります。なお、りゅうずを回転し続けても時計が壊れることはありませんが過剰な操作はお控えください。

※ ぜんまいが解けて止まった状態からお使いの場合、りゅうずでぜんまいを巻き上げても直ぐには動きません。機械式時計の特徴でぜんまい巻き始めのぜんまいトルク（力）が弱いためです。ぜんまいが巻かれてある程度の強いトルクに達すると秒針が動き始めますが、早めに動かすためには、時計を振りてんぷを強制的に回転させることで動かすことができます。

りゅうずは引き出さないでください。
（ねじロック式の場合は、ロックを解除してください）

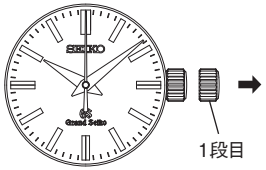
りゅうずを右（12時方向）にゆっくり回して、ぜんまいを巻き上げます。



⚠ご注意 ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。

時刻の合わせかた

① りゅうずを引き出します。秒針が「12時」の位置にきたときに引き出してください。（秒針が止まります。）りゅうずをまわして時刻を合わせてください。
② 時報と同時にりゅうずを押し込むと動き出します。
※ 時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。



ご使用方法（9S61の場合）

ぜんまいの巻きかた

○ この時計は、自動巻式機械時計（手巻つき）です。
○ ぜんまいは時計を腕につけた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くこともできます。
○ 止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずを回しぜんまいが十分に巻かれた状態にしまして、日付と時刻を合わせてから腕にお付けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず0段位置で右方向（12時方向）にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向（6時方向）では空回りするようになっています。りゅうずを約60回転すれば十分に巻き上げることができます。また、ぜんまいはフル巻上げ状態でスリップするようになっております。ぜんまいを切る心配はありませんが過剰な操作はお控えください。

※ ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、1日10時間以上携帯することをお勧めします。また、時計を腕につけないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずを回しぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

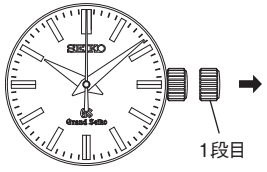
⚠ご注意

○ ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。
○ 機械式時計は輪列の機構上、時刻を合わせる際には、針をいったん正しい時刻よりやや遅らせておき、それから進めて合わせるようにしてください。

時刻の合わせかた

① りゅうずを引き出します。秒針が「12時」の位置にきたときに引き出してください。（秒針が止まります。）りゅうずをまわして時刻を合わせてください。
② 時報と同時にりゅうずを押し込むと動き出します。

※ 時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。



■グランドセイコー規格について

機械式時計の携帯使用時の精度は、ムーブメント（駆動体）構造上の理由により、使用される環境条件の違い（一日の腕の運動量によるぜんまいの巻上げ具合、温度環境、姿勢＝時計の向き　など）によって変化します。
「グランドセイコー規格」とは、時計が使用される環境条件の違いによらずに、グランドセイコー機械式時計の優れた性能を確認するために設定されたセイコー独自の機械式時計用精度規格です。
⇒「グランドセイコー規格」の詳細についてはP.28をご覧ください。
すべてのグランドセイコー機械式時計は、この厳格な規格に基づく「グランドセイコー規格検定」に合格することを条件としております。ケース組込み前のムーブメント単体の状態で、製造工場内の人工的に管理された様々な環境下において合計17日間にわたって時間の進み／遅れ（日差）を計測し、それらの数値が基準内にあるもののみに「グランドセイコー」の称号が与えられます。

お客様が実際に携帯使用される場合の精度は、一日あたり−1 〜+10秒（9S86、9S85は+8秒）を目安としております。
携帯使用時の精度を正しく判断するには、一日のみではなく、通常のご使用状態で一週間から十日間程度お使いになって進み／遅れをみてください。その一日あたりの平均値が上記目安の範囲を超える場合は、調整させていただきます。（ご購入後2年以内は無料、それ以降は有料。）また、次のような場合はご購入後の期間に関わらず有料対応とさせていただきます。
○ 誤ったご使用方法や、磁気を帯びさせてしまう等、お客様の不注意により精度の狂いが乗じているとき
○ 弊社以外での修理により精度の狂いが生じているとき
○ 火災または水害・地震などの天災地変により精度の狂いが生じているとき
○ 保証書の字句を書き換えられた場合

グランドセイコースペシャル規格

グランドセイコースペシャル規格とは、グランドセイコー規格より一層厳しい条件が設定された精度規格です。この規格検定に合格したキャリバーを搭載するモデルはその証として、文字板に「SPECIAL」ロゴマークが表記されます。

グランドセイコー規格の内容

項目	単位	規格値	スペシャル規格値
平均日差	秒／日	−3.0 〜 +5.0	−2.0 〜 +4.0
平均日較差	秒／日	1.8以下	1.6以下
最大日較差	秒／日	4.0以下	3.0以下
水平垂直差	秒／日	−6.0 〜 +8.0	−5.0 〜 +7.0
最大姿勢偏差	秒／日	8.0以下	7.0以下
第一温度係数	秒／日／℃	−0.5 〜 +0.5	−0.3 〜 +0.3
第二温度係数	秒／日／℃	−0.5 〜 +0.5	−0.3 〜 +0.3
復元差	秒／日	−5.0 〜 +5.0	4.0
検定姿勢数		6姿勢	
検定温度		8℃，23℃，38℃	
検定日数		17日間	

グランドセイコー規格の用語説明

項目	意味
検定姿勢	時計性能の様々なテストを実施するために、国際規格ISO3158で5方向の向きが規定されている。GS検定ではそれに加え、腕から外して時計を置いた状態を想定し、12時上姿勢を追加し6方向としている。(文字板上、文字板下、12時上、3時上、6時上、9時上)
平均日差	異なる6姿勢で各2日づつ実測した合計12の日差データの平均値のこと。時計の1日あたりの基本的な進み・遅れを示す目安だが、実際の精度実力は、他の項目を含めた総合的な判断が必要である。
平均日較差	異なる6姿勢で各2日づつ実測した際の1日目と2日目の日差の変化量6データの平均値のこと。各姿勢での日毎の精度がどの程度安定しているかを示している。
最大日較差	異なる6姿勢で各2日づつ実測した際の1日目と2日目の日差の変化量6データ中の最大値のこと。日毎の精度が、姿勢によって最大どの程度変化しているかを示している。
水平垂直差	日常生活で最も使われると想定される2姿勢における進み・遅れを表す。時計を文字板上姿勢で置いた場合の2日間の平均日差と、6時上姿勢で置いた場合の2日間の平均日差との差。
最大姿勢偏差	試験初期の12日間の日差と、平均日差との差の最大値。時計の置き方により、日差がどの程度変化しているかを表す。
第一温度係数	同一姿勢（文字板上）において、38℃から8℃までの環境で1℃あたりの日差の変化量。時計が使用される温度環境（腕から外した状態を想定）での進み・遅れを示している。
第二温度係数	同一姿勢（文字板上）において、38℃から23℃までの環境で1℃あたりの日差の変化量。時計が使用される温度環境（腕に装着した状態を想定）での進み・遅れを示している。
復元差	検定最後の1日の日差から最初の2日間の平均日差を差し引いた値。時計をある一定期間使用後に、日差がどの程度安定しているかを表す。

グランドセイコー規格検定合格証明書について

○ グランドセイコー規格検定合格証明書は、ケース組込み前のムーブメント単体の状態で、製造工場内の人工的に管理された環境の下で計測した実測値が、グランドセイコー規格検定に合格したことを証明するものです。搭載されている機種番号、個別のムーブメント製造連番およびケース製造連番が印字されています。

○ 機械式時計の携帯使用時の精度は、お客さまそれぞれのご使用条件（一日の腕の運動量によるぜんまいの巻上げ具合、温度環境、姿勢[時計の向き]など）によって変化するものです。従いまして、お客さまが実際に携帯使用される場合の精度はグランドセイコー規格に定められた各項目の数値とは異なることがあります。

⚠注意

グランドセイコー規格検定合格証明書を紛失された場合の再発行はできません。
また、時計を修理・調整した後の再発行もできません。

機械式時計の精度についてご注意事項

機械式時計はぜんまいが巻き解ける力を動力にして針を動かし、小さな金属部品同士が物理的に働き合って精度をコントロールする機構です。機械式時計の繊細な金属部品は、温度や重力、衝撃などの外部環境や、携帯時間やぜんまいの巻上げ量といった使用状況の影響を受けやすく、それが時計の進み／遅れとして現れてきます。

① 機械式時計の精度は「平均日差」

クオーツ時計の精度は月差±15秒や年差±10秒というように、月や年単位で表されます。これは、一ヶ月あるいは一年を通して使った場合にトータルの精度誤差がどの位であるかということを示しています。
これに対し機械式時計の精度は「平均日差」で表すのが一般的です。
機械式時計の精度は様々な使用環境の影響を受けて毎日微妙に変化し、一定していないのが普通です。そこで一日のみなく、一週間から十日間程度の使用した場合の平均値を見て精度の良し悪しを判断する必要があります。
グランドセイコー機械式時計の携帯使用時の精度は、一日あたり−1 〜＋10秒（9S86、9S85の場合は−1 〜＋8秒）を目安としております。通常のご使用状態で、一週間から十日間程度お使いになった際の平均値がこの目安範囲を超えてしまう場合は、調整させていただきます。

＊ご購入後2年以内は無料、それ以降は有料。ただしご使用期間が長く、部品が経年劣化している場合にはご希望の精度に調整できないこともありますので予めご了承ください。 ⇒詳しくはP.27およびP.30をご覧ください。

② 精度に影響を与える要素：その1　ぜんまいの巻上げ量

機械式時計をより良い精度でお使いいただくためには、ぜんまいからなるべく一定した強いエネルギーが各部品に供給されることが必要です。
ぜんまいがいっぱいに巻き上げられている状態では精度も安定していますが、ぜんまいがほどけてきて供給されるエネルギーが弱まると、精度を制御する部品が外部からの影響を受けやすくなり、精度も不安定になります。
安定した精度でお使いいただくためには、ぜんまいが十分に巻き上げられた状態でご使用することをお勧めします。

③ 精度に影響を与える要素：その2　温度の影響

機械式時計の部品は金属製なので、温度の変化によって微妙に伸び縮みし、それが精度に影響を与えます。一般に高温下では遅れがちに、低温下では進みがちになります。

④ 精度に影響を与える要素：その3　姿勢（時計の向き）による差

機械式時計の精度に関わる部品は、地球の重力からも影響を受けています。例えば時計を水平にしたときと、12時側を上にして時計を立てて置いたときでは、進み・遅れが変わります。
時計を腕に着用しないときは、置きかたによって着用中に生じた精度の誤差をある程度補正することもできます。様々な向きをお試しになり、ご自分の時計に合う置き方を見つけてください。

■ご注意いただきたいこと

アフターサービスについて

保証と修理について

○ 修理や点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際は、お買い上げ店、または弊社お客様相談窓口にご依頼ください。
○ 保証期間内に不具合が生じた場合は、必ず保証書を添えてお買い上げ店へお持ちください。
○ 保証内容は保証書に記載したとおりです。
保証書をよくお読みいただき、大切に保管してください。
○ 保証期間終了後については、修理によって機能が維持できる場合には、ご要望により有料修理させていただきます。
○ 保証期間終了後の有料の内装修理・オーバーホールは、コンプリートサービスとなります。コンプリートサービスとは、内装修理・オーバーホール時にケースやメタルバンドに簡単なポリッシュ（表面を整え、つやを出すサービス）を施すものです。

補修用性能部品について

○ この時計の補修用性能部品の保有期間は通常10年を基準としています。
補修用性能部品とは､時計の機能を維持するために必要な修理用部品です。
○ 修理の際、外観の異なる代替部品を使用させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

点検調整のための分解掃除（オーバーホール）について

○ 長くご愛用いただくために、２年～３年に1度程度の点検調整のための分解掃除（オーバーホール）をおすすめします。
○ この時計のムーブメントは、機構の性質上動力を伝達する歯車部分に常に力が加わっています。これらが常に機能するためには、定期的な部品の洗浄、油の交換、精度調整、機能チェック、消耗品の交換などが大切です。特にお買い上げ後２年～３年目の点検調整のための分解掃除（オーバーホール）を行うことが、長く使用するためには重要です。ご使用状況によっては、機械の保油状態が損なわれたり、油の汚れなどによって部品が磨耗し、止まりにいたることがあります。
またパッキンなどの部品の劣化が進み、汗や水分の浸入などで防水性能が損なわれる場合があります。
点検調整のための分解掃除（オーバーホール）は、「純正部品」とご指定の上、お買い上げ店にご依頼ください。その際、パッキンやばね棒の交換もあわせてご依頼ください。
○ 点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際には、ムーブメント交換となる場合もあります。

保証について

取扱説明書にそった正常なご使用により､保証期間内に不具合が生じた場合は､下記の保証規定によって無料で修理･調整いたします。

保証の対象部分

○ 時計本体（ムーブメント･ケース）および金属バンドです。

保証の適用外

（保証期間あるいは保証対象部分であっても、次のような場合には有料になります）

○ 皮革･ウレタン･布などのバンドの交換
○ ご使用中に生じるケース、ガラス、バンドなどへのキズ･汚れなど
○ 事故または不適切な取扱いによって生じた故障および損傷
○ 火災･水害･地震等の天災地変による故障および損傷
○ 保証書の字句を書き換えられた場合
○ 保証書のご提示がない場合

保証を受ける手続き

○ 不具合が生じた場合は、時計に必ず保証書を添えてご持参の上、お買い上げ店にご依頼ください。
○ ご贈答、転居などによりお買い上げ店での保証が受けられない場合は、弊社お客様相談窓口に保証書を添えてご依頼ください。

その他

○ 修理の際、ケース･文字板･針･ガラス･バンドなどは一部代替品を使用する場合があります。
修理用部品の保有期間はP.30「補修用性能部品について」をご参照ください。
○ 金属バンドなどの調整は、お買い上げ店または弊社お客様相談窓口にご依頼ください。
その他の販売店では有料もしくはお取り扱いいただけない場合があります。
○ 保証は、保証書に明示した期間・条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものです。
これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お手入れについて

日ごろからこまめにお手入れしてください

○ りゅうずを引き出して洗わないでください。
○ 水分や汗、汚れはこまめに柔らかい布でふき取るように心がけてください。
○ 海水につけた後は、必ず真水でよく洗ってからふき取ってください。
その際、直接蛇口から水をかけることは避け、容器に水をためるなどしてから洗ってください。

※「非防水」、「日常生活用防水」の場合は、おやめください。
⇒ 性能と型式について　P.34　防水性能について　P.34

りゅうずは時々回してください

○ りゅうずのさびつきを防止するために、時々りゅうずを回してください。
○ ねじロック式りゅうずの場合も同様です。
⇒ りゅうずについて　P.13

バンドについて

バンドは直接肌に触れ、汗やほこりで汚れます。そのため、お手入れが悪いとバンドが早く傷んだり、肌のかぶれ・そで口の汚れなどの原因になります。長くお使いになるためには、こまめなお手入れが必要です。

金属バンド

○ ステンレスバンドも水や汗・汚れをそのままにしておくと、さびやすくなります。
○ 手入れが悪いと、かぶれやワイシャツのそで口が黄色や金色に汚れる原因になります。
○ 水や汗・汚れは、早めに柔らかな布でふき取ってください。
○ バンドのすき間の汚れは、水で洗い、柔らかな歯ブラシなどで取り除いてください。
（時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護しておきましょう。）
残った水分は柔らかな布でふき取ってください。
○ チタンバンドでも、ピン類には強度に優れたステンレスが使用されているものがあり、ステンレスからさびが発生することがあります。
○ さびが進行すると、ピンの飛び出しや抜けが発生し、時計を脱落させてしまうことがあります。また、逆に中留が外れなくなることがあります。
○ 万が一、ピンが飛び出している場合は、怪我をするおそれがありますので、ただちに使用をやめて修理をご依頼ください。

皮革バンド

○ 水や汗、直射日光に弱く、色落ちや劣化の原因になります。
○ 水がかかったときや汗をかいた後は、すぐに乾いた布などで、吸い取るように軽くふいてください。
○ 直接日光にあたる場所には放置しないでください。
○ 色の薄いバンドは、汚れが目立ちやすいので、ご使用の際はご注意ください。
○ 時計本体が日常生活用強化防水10（20）気圧防水になっているものでも、アクアフリーバンド以外の皮革バンドは、水泳・水仕事などでのご使用はお控えください。

ポリウレタンバンド

○ 光で色があせたり、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。
○ 特に半透明や白色・淡い色のバンドは、他の色を吸着しやすく、また変色をおこします。
○ 汚れたら水で洗い、乾いた布でよくふき取ってください。
（時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護しておきましょう。）
○ 弾力性がなくなったら取り換えてください。そのまま使い続けるとひび割れが生じバンドが切れやすくなります。

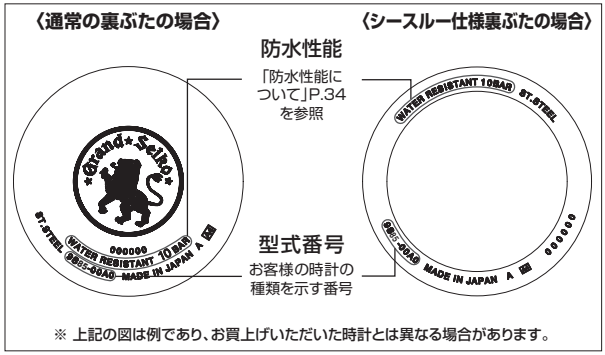
かぶれやアレルギーについて

バンドによるかぶれは、金属や皮革が原因となるアレルギー反応や、汚れ、もしくはバンドとのすれなどの不快感が原因となる場合など、いろいろな発生原因があります。

バンドサイズのめやすについて

バンドは多少余裕をもたせ、通気性をよくしてご使用ください。
時計をつけた状態で、指一本入る程度が適当です。

時計の裏ぶたでも性能と型式の確認ができます



※ 上記の図は例であり、お買上げいただいた時計とは異なる場合があります。

防水性能について

お買い上げいただいた時計の防水性能を
下記の表でご確認の上ご使用ください。

裏ぶた表示	防水性能	お取扱方法
防水性能表示なし	非防水です。	水滴がかかったり、汗を多くかく場合には、使用しないで下さい。
WATER RESISTANT	日常生活用防水です。	日常生活での「水がかかる」程度の環境であれば使用できます。 ⚠警告 水泳には使用しないで下さい。
WATER RESISTANT 5 BAR	日常生活用強化防水で5気圧防水です。	水泳などのスポーツに使用できます。
WATER RESISTANT 10（20）BAR	日常生活用強化防水で10(20)気圧防水です。	空気ボンベを使用しないスキンダイビングに使用できます。

耐磁性能について（磁気の影響）

この時計は、身近にある磁気の影響を受け、時刻が狂ったり止まったりします。

裏ぶた表示	お取扱方法	保証水準
耐磁性能表示なし	磁気製品より5cm以上遠ざける必要があります。（JIS1種）	4,800A/m
⊓		
⊓	磁気製品より1cm以上遠ざける必要があります。（JIS2種）	16,000A/m
MAGNETIC RESISTANT 40000A/m	日常生活のみならず、特殊作業環境下において磁気製品に1cmまで近づけたとしても、ほとんどの場合性能を維持できます。	40,000A/m
MAGNETIC RESISTANT 80000A/m		80,000A/m

※ A/m（アンペアメーター）とは、磁界の強さを表す国際単位（SI単位）です。

時計に影響を及ぼす身の周りの磁気製品例

磁気を帯びたことが原因で、携帯使用時の精度めやす範囲を超えている場合、磁気の除去および精度の再調整作業は、保証期間にかかわらず有料とさせていただきます。

この時計が磁気の影響を受ける理由

内蔵されているひげぜんまいが、外からの強い磁力の影響を受けます。

ルミブライトについて

お買い上げの時計がルミブライトつきの場合

ルミブライトは、太陽光や照明のあかりを短時間（約10分間：500ルクス以上）で吸収して蓄え、暗い中で長時間（約3時間～ 5時間）発光します。光が当たらなくなってから輝度（明るさ）は、時間の経過とともに弱まります。なお、光を蓄える際の光の強さや光の吸収度合いとルミブライトの面積によって、発光する時間や見え方に差が生じます。

※ 一般的には明るい所から暗い所へ入った場合、人の目はすぐには順応しません。初めはものが見にくいですが、時間の経過と共に見やすくなってきます。(目の暗順応)

※ ルミブライトは、放射能などの有害物質をまったく含んでいない環境・人に安全な蓄光（蓄えた光を放出する）塗料です。

照度のめやすについて

環　境		お明るさ（照度）のめやす
太陽光	晴れ	100,000ルクス
	くもり	10,000ルクス
屋内（昼間窓際）	晴れ	3,000ルクス以上
	くもり	1,000 ～ 3,000ルクス
	雨	1,000ルクス以下
照明（白色蛍光灯40Wの下で）	1m	1,000ルクス
	3m	500ルクス（通常室内レベル）
	4m	250ルクス

こんな時には

現象	考えられる原因	このようにしてください
時計が止まった。	ぜんまいが巻かれていない。	ぜんまいを手で巻くか、または数回振れば動き出します。 それでも、動かない場合は、お買い上げ店にご相談ください。
時計が一時的に進む／遅れる。	暑いところまたは寒いところに長く置いた。	精度は、常温にもどれば元にもどります。
	磁気を発生するもののそばに置いた。	精度は、元にもどりません。元の精度に戻すためには、脱磁(修理)をする必要があります。お買い上げ店にご相談ください。
	落としたり強くぶつけたり、または激しいスポーツをした。強い振動が加えられた。	精度は、元にもどりません。お買い上げ店にご相談ください。
	3年を越える長期間、分解掃除による点検調整を行っていない。	お買い上げ店にご相談ください。
日付が日中に変わる。	時刻合わせが12時間ずれている。	12時間、針を進めて時刻および日付を合わせ直してください。
ガラスのくもりが消えない。	パッキンの劣化などにより時計内部に水分が入った。	お買い上げ店にご相談ください。

※ その他の現象は、お買い上げ店にご相談ください。

■製品仕様（ムーブメント関係）

機　種	9S86、9S85
基本機能（共通）	時針、分針、秒針、日付表示
基本機能(9S86のみ)	24時針、日付連動式時差修正機能
振動数	36,000振動／時間（10振動／秒）
GS規格精度	平均日差※　－3秒～＋5秒
GSスペシャル規格精度	平均日差※　－2秒～＋4秒
駆動方式	ぜんまい巻〈自動巻（手巻つき）〉
持続時間	最大巻上時約55時間以上
使用石数	37石

機　種	9S66
基本機能	時針、分針、秒針、24時針、日付表示
振動数	28,800振動／時間（8振動／秒）
精度	平均日差※　－3秒～＋5秒
駆動方式	ぜんまい巻〈自動巻（手巻つき）〉
持続時間	最大巻上時約72時間以上
使用石数	35石

機　種	9S65、9S61
基本機能（共通）	時針、分針、秒針
基本機能(9S65のみ)	日付表示
振動数	28,800振動／時間（8振動／秒）
精度	平均日差※　－3秒～＋5秒
駆動方式	ぜんまい巻〈自動巻（手巻つき）〉
持続時間	最大巻上時約72時間以上
使用石数	35石

機　種	9S64
基本機能	時針、分針、秒針
振動数	28,800振動／時間（8振動／秒）
精度	平均日差※　－3秒～＋5秒
駆動方式	ぜんまい巻（手巻）
持続時間	最大巻上時約72時間以上
使用石数	24石

平均日差※：ケース組み込み前のムーブメントを6姿勢で12日間、人工的に管理された環境下に固定して測定した日差の平均値です。

ご注意：ご使用になる条件（携帯時間、温度環境、巻上げ具合等）によっては、上記精度の範囲を超える場合がありますので、実際に携帯使用される場合の精度は一日あたり－1 ～＋10秒（9S86、9S85は＋8秒）を目安としております。

※ 上記の製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

Thank you very much for choosing a SEIKO watch. For proper and safe use of your SEIKO watch, please read the instructions carefully in this booklet before using it.

Keep this manual handy for easy reference.

Length adjustment service for metallic bands is available at the retailer from whom the watch was purchased. If you cannot have your watch repaired by the retailer from whom the watch was purchased because you received the watch as a gift, or you moved to a distant place, please contact SEIKO CUSTOMER SERVICE CENTER. The service may also be available on a chargeable basis at other retailers, however, some retailers may not undertake the service.

If your watch has a protective film for preventing scratches, make sure to peel it off before using the watch. If the watch is used with the film on it, dirt, sweat, dust, or moisture may be attached to the film and may cause rust.

CONTENTS

■CAUTIONS FOR ACCURACY ····· 40
■HANDLING CAUTIONS ····· 40
■INTRODUCTION -About mechanical watch- ····· 42
・Characteristics of a mechanical watch ····· 43
・For lifelong use of your mechanical watch ····· 45
■CHECK THE CALIBER NUMBER ····· 48
■NAMES OF THE PARTS ····· 49
■HOW TO USE ····· 51
・For Cal. 9S85, 9S65 ····· 52
・For Cal. 9S86, 9S66 ····· 55
※List of time differences in major regions of the world ····· 61
・For Cal. 9S64 ····· 62
・For Cal. 9S61 ····· 64
■GRAND SEIKO STANDARD ····· 65
・Grand Seiko (Special) Standard Inspection Certificate ····· 68
・Cautions for accuracy of mechanical watch ····· 69
■TO PRESERVE THE QUALITY OF YOUR WATCH ····· 70
・After-sale service ····· 70
・Guarantee ····· 71
・Daily care ····· 72
・Band ····· 73
・Water resistance ····· 74
・Magnetic resistance (Magnetic influence) ····· 75
・Lumibrite ····· 76
・Troubleshooting ····· 77
■SPECIFICATIONS (Movement) ····· 78

■CAUTIONS FOR ACCURACY

○ Normal usage accuracy of a mechanical watch varies depending on individual customer's use conditions such as winding state of the mainspring by movement amount of the customer's arm per day, temperature environment, and posture (direction of the watch). Accordingly, the actual normal usage accuracy when the watch is used by a customer may differ from the numerical value of each item specified in the Grand Seiko Standard.

○ The target range of normal usage accuracy when the watch is actually used by a customer is set to –1 to +10 seconds (in the case of Cal. 9S86 and 9S85, -1 to +8 seconds) per day.
To correctly judge the normal usage accuracy, please use the watch for not only one day, but also approximately one week to 10 days under normal use conditions to check loss or gain of time. If the average value per day exceeds the target range, we will adjust the watch. (Adjustment is provided Free of charge for two years after purchase, then charged thereafter. For more details, please refer to the instruction manual.)

○ The enclosed Grand Seiko Standard Inspection Certificate certifies the values of a movement single unit before assembly in a case which are measured under an artificially controlled environment in the production factory passed the Grand Seiko standard inspection.
Should the certificate be lost or after repair or adjustment, it cannot be reissued.

■HANDLING CAUTIONS

⚠WARNING To indicate the risks of serious consequences such as severe injuries unless the following safety regulations are strictly observed.

Immediately stop wearing the watch in the following cases.

○ If the watch body or band becomes edged by corrosion etc.
○ If the pins protrude from the band.
※ Immediately consult the retailer from whom the watch was purchased or SEIKO CUSTOMER SERVICE CENTER.

Keep the watch and accessories out of the reach of babies and children.

Care should be taken to prevent a baby or a child accidentally swallowing the accessories. If a baby or child swallows the battery or accessories, immediately consult a doctor, as it will be harmful to the health of the baby or child.

⚠WARNING

Do not use the watch in scuba diving or saturation diving.

The various tightened inspections under simulated harsh environment, which are usually required for watches designed for scuba diving or saturation diving, have not been conducted on the water-resistant watch with the BAR (barometric pressure) display. For diving, use special watches for diving.

⚠CAUTIONS To indicate the risks of light injuries or material damages unless the following safety regulations are strictly observed.

Avoid wearing or storing the watch in the following places.

○ Places where volatile agents (cosmetics such as polish remover, bug repellent, thinners etc.) are vaporizing
○ Places where the temperature drops below 5 ºC or rises above 35 ºC for a long time
○ Places of high humidity ○ Places affected by strong magnetism or static electricity
○ Dusty places ○ Places affected by strong vibrations

If you observe any allergic symptoms or skin irritation

Stop wearing the watch immediately and consult a specialist such as a dermatologist or an allergist.

Other cautions

○ Replacement of the metal band requires professional knowledge and skill. Please ask the retailer from whom the watch was purchased for replacement of the metal band, as there is a risk of hand or finger injury and fear of losing parts.
○ Do not disassemble or tamper with the watch.
○ Keep the watch out of the reach of babies and children. Extra care should be taken to avoid risks of any injury or allergic rash or itching that may be caused when they touch the watch.
○ If your watch is of the fob or pendant type, the strap or chain attached to the watch may damage your clothes, or injure the hand, neck, or other parts of your body.
○ Please keep in mind that if a watch is taken off and placed down as it is, the case back, the band and the clasp will rub against each other possibly causing scratches on the case back. We recommend placing a soft cloth between the case back, the band and the clasp after taking off your watch.

⚠CAUTIONS

Do not turn or pull out the crown when the watch is wet.

Water may get inside of the watch.
※ If the inner surface of the glass is clouded with condensation or water droplets appear inside of the watch for a long time, the water resistant performance of the watch is deteriorated. Immediately consult the retailer from whom the watch was purchased or SEIKO CUSTMER SERVICE CENTER.

Do not leave moisture, sweat and dirt on the watch for a long time.

Be aware of a risk that a water resistant watch may lessen its water resistant performance because of deterioration of the adhesive on the glass or gasket, or the development of rust on stainless steel.

Do not wear the watch while taking a bath or a sauna.

Steam, soap or some components of a hot spring may accelerate the deterioration of water resistant performance of the watch.

Do not pour running water directly from the faucet.

The water pressure of tap water from a faucet is high enough to degrade the water resistant performance of a water resistant watch for everyday life.

■INTRODUCTION -About mechanical watch-

Thank you very much for purchasing the Grand Seiko mechanical watch

Take hold of your watch softly
Hear the watch ticking
Tick tock, tick tock, tick tock
Soft and faint, a dignified sound can be heard

The sound can be called
The crystal of the craftsmen's spirit and skill
Handpicked parts assembled one by one
Carefully, with craftsmanship,
Giving life to a mechanical watch
This is proven by the sound

Talking about accuracy,
Mechanical watches cannot be compared to
Quartz watches, that is for certain
However, the accuracy of a mechanical watch
Is pursued by human hands
Full of spirit and know-how of craftsmen

A mechanical watch - complicated, sensitive,
And having a human touch
We would like to let all of you know
The charm of a mechanical watch, which has no bounds
So we made this handbook, mainly detailing the accuracy
Wishing you will have a nice time
With your Grand Seiko for a long, long time

Seiko Watch Corporation

Quartz watches and mechanical watches - what is the difference?

We will explain by example

Quartz watches that you have come to be familiar with
These are just like airplanes, controlled by computers
A battery, IC, and crystal make quartz watches work accurately, electrically

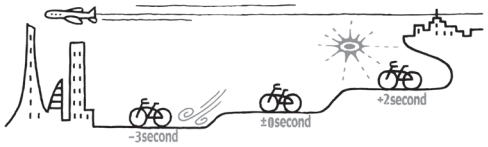
Some loss or gain may occur while the watch is worn
However, this will be too small to notice in your daily life

If a quartz watch resembles an airplane,
A mechanical watch is like a bicycle

All watch parts work together mechanically to make it tick
Thus, a mechanical watch is easily affected by the outside environment

If it is hot, the watch tends to lose time
When power driving the watch becomes short (When the amount the spring is wound is short), accuracy becomes unstable
If the resting position of the watch is changed, accuracy is also affected

The rate of loss/gain could be significant that you will notice in your daily life



The accuracy is shown by the daily rate

The measured loss/gain of the watch per day
This is called the daily rate

The accuracy of a mechanical watch
Is usually shown in this daily rate

The accuracy of a mechanical watch changes delicately day by day
Depending on the condition in which the watch is used or the outside environment

Thus,

By only observing loss/gain in one day
You cannot judge how accurate the watch works

If you check the average of the daily loss/gain rate,
You can judge the accuracy of the watch

> In the case of quartz watches, the accuracy is usually shown by the monthly/yearly rate
> Total losses/gains for a month/year are called the loss/gain rate of quartz watches

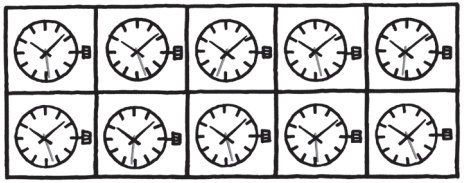
English

The accuracy of a mechanical watch movement at rest / the accuracy of a mechanical watch in use

The accuracy of a mechanical watch varies depending on many things,
Such as the amount the spring is wound by movements of your arm, temperature, or resting position of the watch

Thus to show the accuracy of a mechanical watch evenly, not depending on the environment
Loss/gain of a mechanical watch is measured
Before the inside movements of the watch are put in the case,
Under controlled conditions,
With many days of tests
And the measured rate is called "the accuracy of mechanical watch movement at rest"

In both the Official Swiss Chronometer Inspectorate and Grand Seiko Standard
The standard rate is the accuracy of mechanical watch movement at rest
*Refer to the instruction manual for further information on the Grand Seiko Standard and Rating Certificate.



This rate is the data measured in an environment that is artificially controlled
In order to fairly evaluate/show the abilities of mechanical watches without being influenced by environmental changes
So it is different from "the accuracy of mechanical watches in use"
When you are actually wearing the watch

The accuracy of a mechanical watch varies delicately day by day, depending on the environment
This is like a living thing
One of the charms that a mechanical watch has

The accuracy of a mechanical watch in use should be from –1 second/day to +10 seconds (+8 seconds for Cal. 9S86 and 9S85) /day. If the average of the daily rates exceeds this level, we would like the responsibility for adjusting it accordingly ([Only in Japan]. The cost of adjusting the watch is free of charge for two years from the date of purchase.
To adjust the accuracy as accurately as possible, information such as the rate of loss/gain of your watch and how you use it, are very important. Please let us know the following when you ask for adjustment of your watch by our service center.
(1) The average daily loss/gain rates for one week to ten days
Ex. an average of +11 seconds
(2) Approximate hours of wearing the watch in one day in the above period
Ex. Approximately 10 hours
(3) The resting position of the watch while you don't wear it
Ex. Horizontal - Dial up
Vertical - the crown up

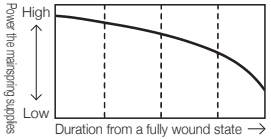
For lifelong use of your mechanical watch rule No.1

Wind the mainspring of your mechanical watch at a fixed time.

As there are rules for everything
There is a rule for winding the spring

You have not heard this before?
Please keep it in mind

The mainspring - the source of energy for a mechanical watch
When it is fully wound, it can supply the most stable energy to every part of the watch movement, and the accuracy of the watch becomes most stable



Even if your watch is a self-winding type, when you feel the accuracy is not stable,
Shake the watch or turn the crown about thirty times to wind the mainspring further
If you work at a desk, etc., and do not move too much,
The spring will not be wound sufficiently

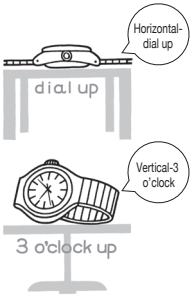
If your watch is a wind-up mechanical type,
Turn the crown thirty to forty times every day, at a fixed time
To wind the mainspring sufficiently

To use the watch with better accuracy,
Wind the mainspring every day, at a fixed time
Please keep to this rule as best as possible

For instance,
You may make it a rule to wind the spring
When you wake up, or at lunchtime

For lifelong use of your mechanical watch rule No.2

Place your watch correctly, like this.



Half of one day, twenty-four hours
When you do not wear your watch
The accuracy while you do not wear the watch is included in "the accuracy of a mechanical watch in use"

The mechanical watch that you take off
Which position should the watch be put in?

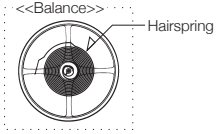
The loss/gain of a mechanical watch
Depends on the resting position of the watch
In one position, the watch tends to gain, in another position, it doesn't

For instance, while you are sleeping at night,
When you do not wear your watch
Put the watch in various positions for seven to eight hours, such as placing it with its face turned up, or with the crown up
To find the best resting position for the watch for reducing the loss/gain that occurs while you are wearing your watch

For lifelong use of your mechanical watch rule No.3

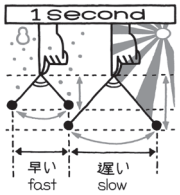
Accuracy will vary depending on the temperature.

A piece of metal of about 0.1 mm, as thin as a hair, is wound
That is the key that controls the accuracy of all mechanical watches



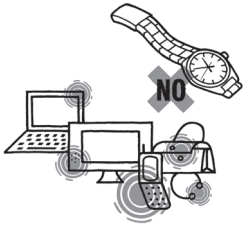
Metals expand and contract depending on the temperature
This characteristic of all metals also applies to the hairspring
This affects the accuracy of a mechanical watch

In other words,
When it is hot, the hairspring expands and the watch tends to lose
When it is cold, the hairspring contracts and the watch tends to gain
This is typical



For lifelong use of your mechanical watch rule No.4

Keep your mechanical watch away from magnetic objects.



After you take off your watch
Do you leave it by your cell phone?
Or put it on a television or next to your PC?
Do you put it in your bag with your cell phone?

Watches do not like magnetism
They may lose or gain when affected by magnetism

To make your mechanical watch work more accurately
It is important not to leave the watch close to magnetic objects for a long time

In particular, cell phones, televisions and speakers of PCs have strong magnetism
A magnetic necklace, a clasp of a handbag, magnetic parts of refrigerators
There are many magnetic objects around us
Please be careful

For lifelong use of your mechanical watch rule No.5

Do not give your mechanical watch a strong shock.

When you play golf, tennis or baseball

When you play a sport that gives your arm a strong impact
Please take off your mechanical watch

There are reasons for this

For instance,
At the moment you hit a golf ball with a club
The impact of the ball against the club is about 1 ton

The impact is given to your wrist
And this will affect very small parts inside your mechanical watch

Sometimes the impact will deform or break a watch part
"Good shot" for you becomes "bad shock" for your watch

For lifelong use of your mechanical watch rule No.6

Overhaul, once every three years

Love your watch, once every three years
Talk about an overhaul

In the case of a mechanical watch, there is no need to change your battery
However
Maintenance of your watch is also necessary

Once every three years
Please take your watch to our service center
For examining and cleaning every part of your watch

Once you start using it
Your watch never takes a rest

And in the case of a mechanical watch, power given to its gear is stronger,
Compared to a quartz watch
So parts may wear,
Oil may dry or be insufficient in some parts

Especially
The first three years after you start using your watch is the period when
Each part gets used to one another
And contacting each other causes additional metal powder

An overhaul after the first three years is
The key to the life of your mechanical watch

Please keep in mind
An overhaul, once every three years

Can be considered
Love for your watch

■CHECK THE CALIBER NUMBER

About the caliber number

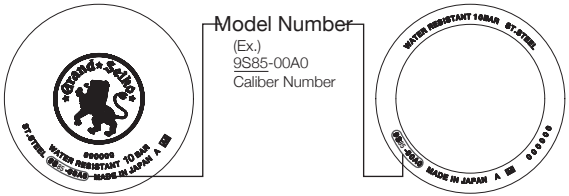
The caliber number is a four-digit number that indicates the model of a movement (mechanical part of a watch). The Grand Seiko watch is mounted with an exclusive caliber. The mechanical caliber number starts with “9S”, the spring drive caliber number starts with “9R” and the quartz caliber number starts with “9F”.

How to check the caliber number

The four-digit model number on the case back is the caliber number.

In the case of mechanical models, the attached “Grand Seiko Standard Inspection Certificate” is printed with “Caliber No.” So, the caliber number can also be checked on the certificate.

<Regular case back> **<See-through case back>**

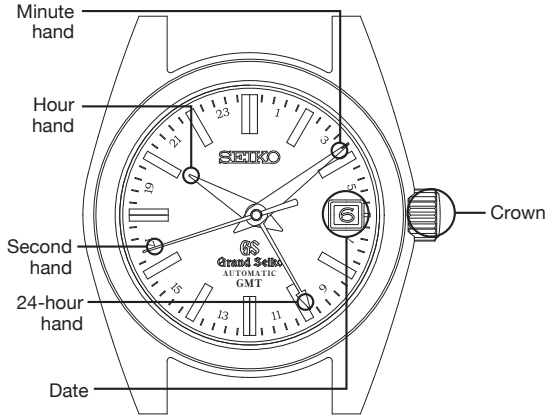


※ The above figures are examples and may differ from the figure on the case back of your watch.

■NAMES OF THE PARTS

9S85, 9S65

9S86, 9S66



English

9S64, 9S61

※ The orientation and design of the display may vary depending on the model.

■HOW TO USE

Crown

There are two types of crowns, a normal crown and a screw-lock crown.

While pressing the crown in, turn it in the direction indicated by the arrow.

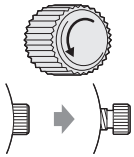
The crown turns. → **Normal crown**: Pull out the crown and operate it.

The crown does not turn. → ※ It cannot be turned any further.

Screw-lock type crown

Unlock the crown before operating it.

Unscrew



After operating the crown, lock it.

While pressing the crown

Screw

※ By locking the crown by screw, a screw-lock type crown can prevent malfunction and increase water resistance.

※ Be careful not to screw the crown in by force as it may damage the slots of the crown.

Screw-lock type crown

The screw-lock type crown features a mechanism that can securely lock the crown when they are not being operated in order to prevent any operational errors and to improve its water resistant property.

◯ It is necessary to unlock the screw-lock type crown before operating it.

◯ Once you have finished operating the crown, make sure to relock it.

[To unlock the crown]
Turn the crown counterclockwise (downward) to unscrew it. Now the crown can be operated.

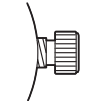
[To lock the crown]
Turn the crown clockwise (upward) while gently pressing it in toward the watch body until it stops.

Unlock the crown before operating it.

Unscrew

Crown locked

Crown unlocked



After operating the crown, lock it.

While pressing the crown in

Screw

※ When locking the crown, turn it slowly with care, ensuring that the screw is properly engaged. Be careful not to push it in forcefully, as doing so may damage the screw hole in the case.

English

HOW TO USE (FOR CAL. 9S85, 9S65)

How to wind the mainspring

○ This watch is an automatic winding type (with manual winding function).
○ The mainspring can be sufficiently wound automatically by natural movement of the arm while normally worn on the wrist. In addition, it can be wound by turning the crown.
○ A stopped watch can be started by arm movement when it is worn on the wrist, however, before wearing the watch, wind the mainspring sufficiently and adjust the time and date. When turning the mainspring, turn the crown at the normal position clockwise (12 o'clock direction) slowly. If you turn the crown counterclockwise (6 o'clock direction), it will turn free. The mainspring is sufficiently wound when the crown is turned approximately 45 times (60 times for Cal. 9S65). When the mainspring is in the full-winding state, it is structured so that the mainspring slips if it is wound. Therefore, it is not necessary to worry about cutting the mainspring, however, please refrain from excessive operation.

※ It is recommended that you wear the watch on your wrist more than 10 hours a day to keep the mainspring wound up. If the mainspring is not wound up sufficiently, the watch may lose or gain time. If you do not wear the watch on your wrist, wind the mainspring up sufficiently by turning the crown by hand every day at a fixed time.

⚠CAUTION

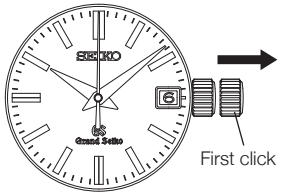
○ Do not adjust the date between 10 o'clock p.m. and 1 o'clock a.m. If the date is adjusted during this period of time, the date may not change when the next day comes, or this may cause damage.
○ Due to its wheel train mechanism, for setting the time of the mechanical watch correctly, the hands should be set back once slightly and then set forward to the correct time.

How to set the time and date

This watch is equipped with the date display function. The date changes once every 24 hours at around 12 o'clock a.m. Therefore, if the a.m./p.m. is incorrectly set, the date will change around 12 o'clock p.m.

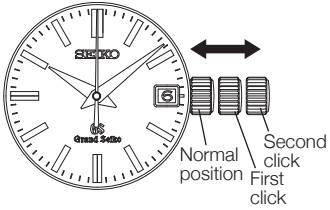
① Pull out the crown to the first click. (If the watch is equipped with the screw lock type crown, unscrew the crown before pulling it out.)
② The date can be adjusted by turning the crown clockwise (12 o'clock direction). First turn the crown clockwise until the previous day's date from the desired date appears.

【Ex.】 If you want to set the date to ''6,'' set the date to ''5'' by turning the crown clockwise.



③ Pull out the crown to the second click when the second hand is at the 12 o'clock position. (The second hand stops.) Turn the crown clockwise until the desired date appears. When the date changes, the time is a.m. Further turn the crown to set the current time.

④ Push the crown back into the normal position in accordance with a time signal. The watch starts operating.

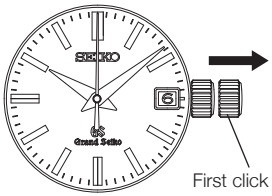


⚠CAUTION For models with a screw lock type crown, remember to screw the crown in.

Date adjustment at the end of the month

It is necessary to adjust the date after February (which has 28 days, 29 days in a leap year) and a 30 day month.

【Ex.】
To adjust the date in the a.m. period on the first day of a month following a 30-day month
On the first day, ''31'' is displayed. Pull out the crown to the first click. Turn the crown clockwise to set the date to ''1'', and push the crown back in to the normal position.



⚠**CAUTION** For models with a screw lock type crown, remember to screw the crown in.

HOW TO USE (FOR CAL. 9S86, 9S66)

How to wind the mainspring

- ○ This watch is an automatic winding type (with manual winding function).
- ○ The mainspring can be sufficiently wound automatically by natural movement of the arm while normally worn on the wrist. In addition, it can be wound by turning the crown.
- ○ A stopped watch can be started by arm movement when it is worn on the wrist, however, before wearing the watch, wind the mainspring sufficiently and adjust the time and date. When turning the mainspring, turn the crown at the normal position clockwise (12 o'clock direction) slowly. If you turn the crown counterclockwise (6 o'clock direction), it will turn free. The mainspring is sufficiently wound when the crown is turned approximately 45 times (60 times for Cal. 9S66). When the mainspring is in the full-winding state, it is structured so that the mainspring slips if it is wound. Therefore, it is not necessary to worry about cutting the mainspring, however, please refrain from excessive operation.

※ It is recommended that you wear the watch on your wrist more than 10 hours a day to keep the mainspring wound up. If the mainspring is not wound up sufficiently, the watch may lose or gain time. If you do not wear the watch on your wrist, wind the mainspring up sufficiently by turning the crown by hand every day at a fixed time.

How to set the time and calendar

- ○ To set the time and calendar, set the 24-hour hand and minute hand first, and then set the hour hand and calendar.
- ○ When setting the time, make sure that the mainspring is sufficiently wound.

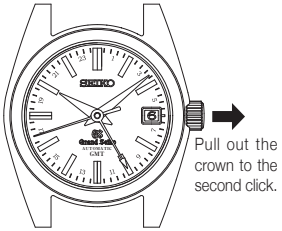
How to set the time

① Make sure that the mainspring is sufficiently wound and the watch is working.

※ When setting the date and time, ensure that the watch is working.

② Unlock the crown.
⇒ "How to use the screw lock type crown" page 51.

③ Pull out the crown to the second click when the small second hand is pointing at the " 0 " second position. The small second hand will stop on the spot.



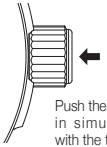
④ Turn the crown to rotate the 24-hour hand and minute hand clockwise and set them to the current time. While doing so, set the minute hand a few minutes behind the correct time, and then slowly advance it to the desired time.

※ Only the 24-hour and minute hands are to be set first. Even if the hour hand is indicating incorrect time, or the date may be altered depending on the position of the hour hand, it is not necessary to make an adjustment at this stage.

Set the 24-hour hand and minute hand.

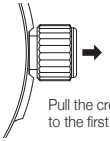
⑤ Push the crown back in simultaneously with the time signal.

※ The setting of the 24-hour, minute and small second hands to the current time is now completed.



Push the crown back in simultaneously with the time signal.

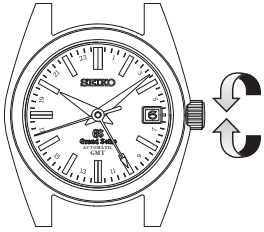
⑥ To move on to the hour hand and calendar setting, pull the crown out to the first click.



Pull the crown out to the first click.

⑦ Turn the crown to set the hour hand. While turning the crown, the moment the date changes is midnight. When setting the hour hand, be sure that AM/PM is set correctly. Adjust the calendar also at this point if necessary.

※ The crown can be turned in either direction to adjust the date, however, it is recommended to turn the crown in the direction which enables you to set the date with a smaller adjustment.

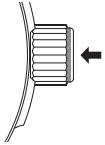


※ Turn the crown slowly, checking that the hour hand moves in one-hour increments.

※ When adjusting the hour hand, the other hands may move slightly. However, this is not a malfunction.

⑧ Push the crown back in to complete the time setting. Relock the crown.

⇒ "How to use the screw lock type crown" page 51.



How to set the calendar

Two full rotations of the hour hand will change the date for one day.
The date advances one day by turning the hour hand two full rotations clockwise (for 24 hours), while the date is set back one day by turning the hour hand two full rotations counterclockwise.

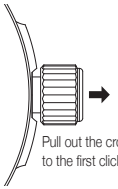
※ Manual date adjustment is required on the first day after a month that has less than 31 days: February, April, June, September and November.

① Make sure that the mainspring is sufficiently wound and the watch is working.

※ When setting the date and time, ensure that the watch is working.

② Unlock the crown.

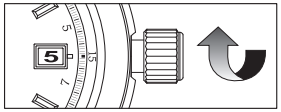
⇒ "How to use the screw lock type crown" page 51.



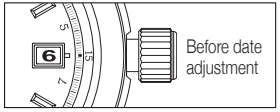
Pull out the crown to the first click.

③ Pull out the crown to the first click.

④ Each time the hour hand makes two full rotations by turning the crown, the date is adjusted one day. While turning the crown, the moment the date changes is midnight. When setting the hour hand, be sure that a.m./p.m. is set correctly.



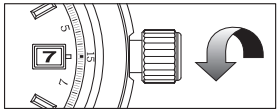
Turning the crown clockwise (upward):
Each time the hour hand makes two full rotations, the date is advanced one day.



※ The crown can be turned in either direction to adjust the date, however, it is recommended to turn the crown in the direction which enables you to set the date with a smaller adjustment.

※ Turn the crown slowly.

※ When adjusting the hour hand, the other hands, the other hands may move slightly. However, this is not a malfunction.



Turning the crown counterclockwise (downward):
Each time the hour hand makes two full rotations, the date is set back one day.

English

⑤ Upon completion of setting, make sure that the time indicated is correct, and then push the crown back in. The calendar setting is now completed. Relock the crown.

⇒ "How to use the screw lock type crown" page 51.

※ The calendar is designed to work in conjunction with the movement of the hour hand, therefore, incorrect setting of a.m./p.m. will cause the date to change at noon.

※ The crown can be turned in either direction to adjust the date, however, it is recommended to turn the crown in the direction which enables you to set the date with a smaller adjustment.

※ Turn the crown slowly, checking that the hour hand moves in one-hour increments.

※ When adjusting the hour hand, the other hands may move slightly. However, this is not a malfunction.

How to use the 24-hour hand

This watch has two different types of 24-hour hand usage.

<Type 1> 24-hour hand as an a.m./p.m. indicator

Simply using the 24-hour hand to show the 24-hour time as an a.m./p.m. indicator. (This is the standard usage type for the 24-hour hand.)

Both the hour hand and the 24-hour hand are indicating the Japan time 10:00 a.m.

<Type 2> 24-hour hand as a dual time indicator

Using the time difference adjustment function, set the 24-hour hand to indicate a time different from the time that the hour and minute hand indicate, which is of a place in a different time zone area with at least one hour of time difference from where you are.

Hour hand: Japan time 10:00 a.m.

24-hour hand: New York time 8:00 p.m.

Time difference adjustment function

For example, while traveling abroad and staying in a place with a different time from where you live, you can conveniently set the watch to indicate the local time in the different time zone area without stopping the watch.

The hour hand indicates the time of the place where you currently are, while the 24-hour hand indicates the time of the place of origin.

The calendar works in conjunction with the movement of the hour hand. If the time difference is correctly adjusted, the watch displays the correct date of the place where you are staying.

How to use the time difference adjustment function

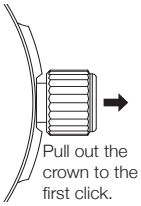
① Make sure that the mainspring is sufficiently wound and the watch is working.

※ When setting the hour hand to use the time difference adjustment function, ensure that the watch is working.

② Unlock the crown.

⇒ "How to use the screw lock type crown" page 51.

③ Pull out the crown to the first click.

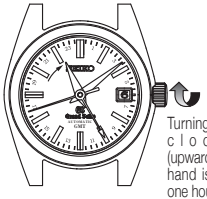


Pull out the crown to the first click.

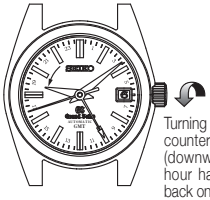
④ Turn the crown to set the hour hand to indicate the time of the place where you are staying. Make sure that a.m./p.m. and date are correctly set.

※ The calendar is designed to work in conjunction with the movement of the hour hand, therefore, incorrect setting of a.m./p.m. will cause the date to change at noon.

⇒ "List of time zone differences in major regions of the world" page 61.



Turning the crown clockwise (upward): The hour hand is advanced one hour.



Turning the crown counterclockwise (downward): The hour hand is set back one hour.

※ The crown can be turned in either direction to adjust the time, however, it is recommended to turn the crown in the direction which enables you to set the date with a smaller adjustment.

※ Turn the crown slowly, checking that the hour hand moves in one-hour increments.

※ While turning the crown, the moment the date changes is midnight.

※ When adjusting the hour hand, the other hands may move slightly. However, this is not a malfunction.

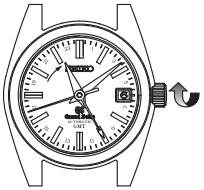
⑤ Upon completion of setting, make sure that the time indicated is correct, and then push the crown back in. The setting procedure is now completed. Relock the crown.

⇒ "How to use the screw lock type crown" page 51.

※ If you set the time during any time between 9:00 p.m. and 1:00 a.m., temporarily set the hour hand back to 8:00 p.m., and then set the time.

Selectable display mode

With the time difference adjustment function, the watch features a dual time display which shows time in two different time zones. It offers two display modes which you can select to suit your needs and preference.



【Ex.1】
Hour hand and calendar: Area A (Japan)
24-hour hand: Area B (New York)

【Ex.2】
Hour hand and calendar: Area B (New York) 24-hour hand: Area A (Japan)

Set the 24-hour hand first, and then set the hour hand.

List of time zone differences in major regions of the world

Names of the cities	UTC ± (Hours)	JST ± (Hours)	Other cities in the same region
Tokyo	+9:00	±0:00	Seoul
Beijin	+8:00	-1:00	Hong Kong, Manila, Singapore
Bangkok	+7:00	-2:00	Jakarta
Dacca	+6:00	-3:00	
Karachi	+5:00	-4:00	Tashkent
Dubai	+4:00	-5:00	
Jeddah	+3:00	-6:00	Nairobi, Mecca
★Cairo	+2:00	-7:00	★Istanbul, ★Athens
★Paris	+1:00	-8:00	★Rome, ★Berlin, ★Madrid
★London	±0:00	-9:00	★Casablanca
★Azores	-1:00	-10:00	
★Rio de Janeiro	-3:00	-12:00	
★Santiago	-4:00	-13:00	
★New York	-5:00	-14:00	★Montreal
★Chicago	-6:00	-15:00	★Mexico City
★Denver	-7:00	-16:00	
★Los Angels	-8:00	-17:00	★San Francisco
★Anchorage	-9:00	-18:00	
Honolulu	-10:00	-19:00	
Midway Island	-11:00	-20:00	
★Wellington	+12:00	+3:00	Fiji
Nouméa	+11:00	+2:00	
★Sydney	+10:00	+1:00	Guam

※ UTC = Coordinated Universal Time / JST = Japan Standard Time

※ Regions marked with ★ use daylight saving time

※ The time zone differences and use of daylight saving time in each city are based on data as of September, 2014. These are subject to change according to the governments of the respective countries or regions.

English

HOW TO USE (FOR CAL. 9S64)

How to wind the mainspring

○ This watch is a manual winding type.
○ In order to wind it up completely, please refer to the following table ;

In case the watch is supposed to be wound up every day.	About 20 turns of the crown will wind up the watch fully.
In case the watch was not wound up more than three days.	About 60 turns of the crown will wind up the watch fully.

○ From the state of the mainspring being sufficiently wound, it continuously operates for approximately 72 hours or more.
○ If the mainspring is not wound up sufficiently, the watch may lose or gain time.
To attain a high accuracy, we suggest that the mainspring is wound up fully once a day at a fixed time.

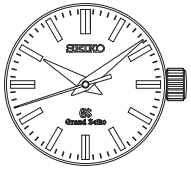
Generally speaking, the crown of the manual winding mechanical watch cannot be turned further when it is wound up fully. However, the crown of CAL. 9S64 can be turned endlessly even after the watch is fully wound up. If you keep turning the crown, that gives no effect to winding, but the watch is so designed as to make the winding a little tighter and not to damage the watch. However, please refrain from excessive operation.

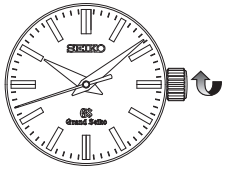
※ When the watch is used from a state in which the mainspring is unwound to a stop, it does not move immediately even if the mainspring is wound with the winding crown. This is because of the mechanical watch's feature that the mainspring torque (force) is weak at the beginning of mainspring winding. The second hand starts moving when the mainspring is wound to reach a certain degree of torque strength, while the watch can be made to move advance by shaking it to rotate the balance wheel forcibly.

Do not pull out the crown.
(If the watch is equipped with the screw lock type crown, unscrew the crown before pulling it out.)

➡

Slowly turn the crown clockwise (12 o'clock direction) to wind the mainspring.



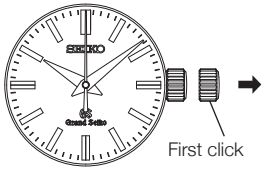


⚠CAUTION For models with a screw lock type crown, remember to screw the crown in.

How to set the time

① Pull out the crown when the second hand is at the 12 o'clock position.
(The second hand stops.)
Turn the crown to set the current time.

② Push the crown back in to the normal position in accordance with a time signal.
The watch starts operating.



English

HOW TO USE (FOR CAL. 9S61)

How to wind the mainspring

○ This watch is an automatic winding type (with manual winding function).
○ The mainspring can be sufficiently wound automatically by natural movement of the arm while normally worn on the wrist. In addition, it can be wound by turning the crown.
○ A stopped watch can be started by arm movement when it is worn on the wrist, however, before wearing the watch, wind the mainspring sufficiently and adjust the time and date. When turning the mainspring, turn the crown at the normal position clockwise (12 o'clock direction) slowly. If you turn the crown counterclockwise (6 o'clock direction), it will turn free. The mainspring is sufficiently wound when the crown is turned approximately 60 times. When the mainspring is in the full-winding state, it is structured so that the mainspring slips if it is wound. Therefore, it is not necessary to worry about cutting the mainspring, however, please refrain from excessive operation.

※ It is recommended that you wear the watch on your wrist more than 10 hours a day to keep the mainspring wound up. If the mainspring is not wound up sufficiently, the watch may lose or gain time. If you do not wear the watch on your wrist, wind the mainspring up sufficiently by turning the crown by hand every day at a fixed time.

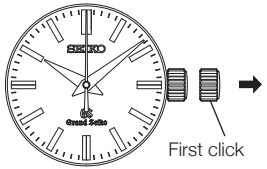
⚠CAUTION

○ For models with a screw lock type crown, remember to screw the crown in.
○ Due to its wheel train mechanism, for setting the time of the mechanical watch correctly, the hands should be set back once slightly and then set forward to the correct time.

How to set the time

① Pull out the crown when the second hand is at the 12 o'clock position.
(The second hand stops.)
Turn the crown to set the current time.

② Push the crown back in to the normal position in accordance with a time signal.
The watch starts operating.



■GRAND SEIKO STANDARD

Due to the movement (driving body) structure, normal usage accuracy of a mechanical watch varies according to differences in environmental conditions of use such as winding state of the mainspring by movement amount of the wrist per day, temperature environment, and position = orientation of a watch.
"Grand Seiko Standard" is a Seiko-exclusive accuracy standard for mechanical watches, which has been established to check superior performance of Grand Seiko mechanical watches irrespective of differences in environmental conditions of use in which a watch is used.
⇒For details of the "Grand Seiko Standard," refer to pages 67 to 68.
It is conditioned that all of Grand Seiko mechanical watches are to be passed by the "Grand Seiko Standard Inspeciton" according to the exacting standard. Only products, in which the movement single unit before assembly in a case is measured for gain/loss (daily rate) under various environments which are artificially controlled in the manufacturing plant for 17 days in total, and the measured values fall under the standard range, are given the title of "Grand Seiko."

For normal usage accuracy when the watch is actually used by a customer, -1 to +10 seconds (+8 seconds for Cal. 9S86 and 9S85) per day are specified as target values. To properly judge the accuracy in the case of normal usage, check gain/loss by using for a week to ten days, not only for one day, in normal use condition. If the mean value per day exceeds the above-mentioned target range, we will adjust the watch. (Adjustment is provided free of charge within two years after purchase. After the two-year period, adjustments are charged.) We will respond to the following cases at cost regardless of the period of time after purchase.

○ Disorder in accuracy has occurred due to customer's carelessness such as, incorrect usage method or magnetizing the watch.
○ Disorder in accuracy has occurred due to repair by another company.
○ Disorder in accuracy has occurred due to natural disasters such as fire, flood or earthquake.
○ Guaranteed conditions have been altered.

Grand Seiko Special Standard

The Grand Seiko Special Standard is an accuracy standard that sets even more exacting conditions than the Grand Seiko Standard.

As for a model mounted with a caliber that passes this standard inspection, as proof of passing, the logo “SPECIAL” is printed on the dial.

Description of Grand Seiko Standard

Item	Unit	Standard	Special Standard
Mean daily rate in different positions	Second/date	–3.0 ～ +5.0	–2.0 ～ +4.0
Mean variation	Second/date	Less than 1.8	Less than 1.6
Maximum variation	Second/date	Less than 4.0	Less than 3.0
Difference between flat and hanging position	Second/date	–6.0 ～ +8.0	–5.0 ～ +7.0
Greatest difference between the mean daily rate and any individual rate	Second/date	Less than 8.0	Less than 7.0
First variation of rate per 1℃	Second/date /℃	–0.5 ～ +0.5	–0.3 ～ +0.3
Second variation of rate per 1℃	Second/date /℃	–0.5 ～ +0.5	–0.3 ～ +0.3
Rate-resumption	Second/date	–5.0 ～ +5.0	4.0
Number of positions in inspection		6 positions	
Condition of temperature in inspection		8, 23, 38℃	
Total days of inspection		17 days	

Description of Grand Seiko Standard Terminology

Item	Meaning
Position in inspection	5 orientations are specified by the International Standard ISO3158 so as to carry out various kinds of tests for time keeping. In addition thereto, in the GS inspection, 12 o'clock Up position in the state where a watch taken off the wrist is placed, is added, 6 orientations are specified. (Dial Up, Dial Down, 12 o'clock Up, 3 o'clock Up, 6 o'clock Up, and 9 o'clock Up)
Mean daily rate	Mean value of a total of 12 daily rates measured in 6 different positions, respectively, for two days. This is a target value indicating basic gain/loss per day of a watch, however, it is required to comprehensively judge the actual accuracy performance in consideration of other items.
Mean variation	Mean value of a total of 6 variations of daily rates between the first day and second day when measured in 6 different positions for two days each. It indicates the degree which daily accuracy stabilizes in each position.
Maximum variation	Maximum value of a total of 6 variations of daily rates between the first day and second day when measured in 6 different positions for two days each. It indicates the degree which accuracy per day changes at maximum according to positions.
Difference between flat and hanging position	Indicates gain/loss in two positions at which a watch is most frequently used in daily life. It is a difference between mean daily rates for two days when a watch is placed in the dial Up position and mean daily rates for two days when a watch is placed in the 6 o'clock Up position.
Greatest difference between the mean daily rate and any individual rate	Maximum difference value between daily rates for twelve days in the test initial stage and mean daily rates. It indicates the degree at which the daily rate varies according to the manner for placing a watch.
First variation of rate per 1℃	Variation in daily rates per 1℃ between 38℃ and 8℃ in the same position (Dial Up position). It indicates gain/loss in the temperature environment (taken-off state from the wrist) where a watch is used.
Second variation of rate per 1℃	Variation of daily rates per 1℃ between 38℃ and 23℃ in the same position (Dial Up position). It indicates gain/loss in the temperature environment (worn state of the wrist) where a watch is used.
Rate-resumption	Value obtained by subtracting mean daily rates of initial two days from daily rate of the last inspection day. It indicates the degree at which daily rate stabilizes after usage for a predetermined period.

Grand Seiko Standard Inspection Certificate

- ○ Grand Seiko Standard Inspeciton Certificate certifies the values of a movement single unit before assembly in a case which were measured under an artificially controlled environment in the manufacturing plant have passed the Grand Seiko Standard Inspeciton. The certificate is printed with the caliber number, movement serial number, and case serial number.
- ○ Normal usage accuracy of mechanical watches varies according to respective customer conditions of use (winding state of the mainspring by movement amount of the wrist per day, temperature environment, and position (orientation of a watch). Accordingly, the actual normal usage accuracy when it is used by a customer may differ from the value of each item specified in the Grand Seiko Standard.

⚠CAUTION

The Grand Seiko Standard Inspeciton Certificate cannot be reissued when it has been lost. Also, it cannot be reissued after repair or adjustment.

Cautions for accuracy of mechanical watch

Mechanical watches have a mechanism that is moved by power generated when the mainspring is unwound, and small metal parts physically work together to control the accuracy. Fragile metal parts of a mechanical watch are easily influenced by external environment such as temperature, gravity, and shock. Also, conditions of use such as normal usage time and winding state of the mainspring can, influence the gain/loss of the watch.

① Accuracy of mechanical watch is "mean daily rate."

Accuracy of the quartz watch is indicated monthly or annually such as a monthly rate of ±15 seconds or annual rate of ±10 seconds. This indicates the degree of total difference in accuracy when the quartz watch is continuously used for a month or a year. To the contrary, accuracy of the mechanical watch is normally indicated as a "mean daily rate." Accuracy of the mechanical watch slightly varies each day as it is influenced by various conditions of use, and it is normally unstable. Then it is required to judge whether the accuracy is satisfactory or not by checking the mean values in the case of use for a week to ten days, but not for only one day. For normal usage accuracy of Grand Seiko mechanical watch, -1 to +10 seconds (+8 seconds for Cal. 9S86 and 9S85) per day are specified as target values. If the mean value exceeds the abovementioned target value in the normal usage condition when the watch is used for a week to ten days, we will adjust it.

＊Adjustment is provided free of charge within two years after purchase. After the two-year period, adjustments are charged. However, please note that the parts that are age-deteriorated due to long duration of use may not be adjusted to your desired accuracy. ⇒For details, refer to pages 65 and 70.

② Factor influencing accuracy -1: Wound amount of the mainspring

In order to use the mechanical watch at better accuracies, it is required to supply a constant strong energy wherever possible to respective parts. In the state where the mainspring is fully wound, accuracy is stable, however, when the mainspring is unwound to weaken energy to be supplied, the parts controlling accuracy tends to be externally influenced, and accuracy becomes unstable. In order to use a mechanical watch at a steady accuracy, it is recommended to use it in a condition where the mainspring is sufficiently wound.

③ Factor influencing accuracy -2: Temperature influence

Mechanical watch parts are metal which slightly elongate and contract by change in temperature, and this influences accuracy. Normally, under high temperatures, it tends to lose time, and under low temperatures, it tends to gain time.

④ Factor influencing accuracy -3: Difference by position (orientation of a watch)

Parts related to accuracy of a mechanical watch are also influenced by the earth's gravity. For example, gain or loss differs when a watch is horizontally placed and when it is vertically placed in the 12 o'clock up position. When the watch is not worn on the wrist, accuracy errors that occur while wearing can also be compensated to some extent according to the position. Try to place it in various positions to find the position appropriate to your watch.

■TO PRESERVE THE QUALITY OF YOUR WATCH

After-sale service

Notes on guarantee and repair

- ○ Contact the retailer from whom the watch was purchased or SEIKO CUSTOMER SERVICE CENTER for repair or overhaul.
- ○ Within the guarantee period, present the certificate of guarantee to receive repair services.
- ○ Guarantee coverage is provided in the certificate of guarantee. Read carefully and retain it.
- ○ For repair services after the guarantee period has expired, if the functions of the watch can be restored by repair work, we will undertake repair services upon request and payment.

Replacement parts

- ○ SEIKO makes it a policy to typically keep a stock of replacement parts for this watch for 10 years. Replacement parts are those which are essential to maintaining the functional integrity of the watch.
- ○ Please keep in mind that if original parts are not available, they may be replaced with substitutes whose outward appearance may differ from the originals.

Inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul)

- ○ Periodic inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul) is recommended approximately once every 2 to 3 years in order to maintain optimal performance of the watch for a long time.
- ○ The movement of this watch has a structure that consistent pressure is applied on its power-transmitting wheels. To ensure these parts work together properly, periodic inspection including cleaning of parts and movement, oiling, adjustment of accuracy, functional check and replacement of worn parts is needed. Inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul) within 2 to 3 years from the date of purchase is highly recommended for long-time use of your watch. According to use conditions, the oil retaining condition of your watch mechanical parts may deteriorate, abrasion of the parts may occur due to contamination of oil, which may ultimately lead the watch to stop. As the parts such as the gasket may deteriorate, water-resistant performance may be impaired due to intrusion of perspiration and moisture. Please contact the retailer from whom the watch was purchased for inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul). For replacement of parts, please specify “SEIKO GENUINE PARTS”. When asking for inspection and adjustment by disassembly and cleaning (overhaul), make sure that the gasket and push pin are also replaced with new ones.
- ○ When your watch is inspected and adjusted by disassembly and cleaning (overhauled), the movement of your watch may be replaced.

Guarantee

Within the guarantee period, we guarantee free repair/adjustment service against any defects according to the following guarantee regulations, provided that the watch was properly used as directed in this instruction booklet.

Guarantee coverage

- ○ The watch body (movement, case) and metallic band.

Exceptions from guarantee

In following cases, repair/adjustment services will be provided at cost even within the guarantee period or under guarantee coverage.

- ○ Exchange of leather, urethane, or fabric band.
- ○ Troubles or damage to the case, glass, or band, caused by accidents or improper usage.
- ○ Scratches or grime caused by use.
- ○ Troubles and damage caused by acts of God, natural disasters including fire, floods or earthquakes.
- ○ Text in certificate has been altered.
- ○ No certificate is presented.

Procedure to claim free repair services

- ○ For any defects under guarantee, submit the watch together with the attached certificate of guarantee to the retailer from whom the watch was purchased.
- ○ In the case where you cannot accept the guarantee from the retailer from whom the watch was purchased due to gift-giving or relocation, etc., ask SEIKO CUSTOMER SERVICE CENTER by attaching the certificate without fail.

Others

- ○ For the watch case, dial plate, hands, glass, band etc., some alternative parts may be used for repair if necessary. Refer to page 70 of this booklet for retention period of the parts.
- ○ For length adjustment service of metallic band, ask the retailer from whom the watch was purchased or SEIKO CUSTOMER SERVICE CENTER. Other retailers may undertake the service on a chargeable basis or may not undertake the service.
- ○ Free repair services are guaranteed only under the period and conditions specified in the certificate of guarantee. It dose not affect specific legal rights of a consumer.

Daily care

The watch requires good daily care

- ○ Do not wash the watch when its crown is at the extended position.
- ○ Wipe away moisture, sweat or dirt with a soft cloth.
- ○ After soaking the watch in seawater, be sure to wash the watch in clean pure water and wipe it dry carefully.

※ If your watch is rated as “non-water resistant” or “water resistant for daily use”, do not wash the watch.
⇒ “The case back shows the caliber and performance of your watch” page 74.
⇒ “Water resistance” page 74.

Turn the crown from time to time

- ○ In order to prevent corrosion of the crown, turn the crown from time to time.
- ○ The same practice should be applied to a screw lock type crown.

⇒ “Crown” page 51.

Band

The band touches the skin directly and becomes dirty from sweat or dust. Therefore, lack of care may accelerate deterioration of the band or cause skin irritation or stain on the sleeve edge. The watch requires a lot of attention for long usage.

Metallic band

- ○ Moisture, sweat or soil will cause rust even on a stainless steel band if they are left for a long time.
- ○ Lack of care may cause a yellowish or gold stain on the lower sleeve edge of shirts.
- ○ Wipe off moisture, sweat or soil with a soft cloth as soon as possible.
- ○ To clean the soil around the joint gaps of the band, wipe it out in water and then brush it off with a soft toothbrush (Protect the watch body from water splashes by wrapping it up in plastic wrap etc.).
- ○ Because some titanium bracelets use pins made of stainless steel, which has outstanding strength, rust may form in the stainless steel parts.
- ○ If rust advances, pins may poke out or drop out, and the watch case may fall off the bracelet, or the clasp may not open.
- ○ If a pin is poking out, personal injury may result. In such a case, refrain from using the watch and request repair.

Leather band

- ○ A leather band is susceptible to discoloration and deterioration from moisture, sweat and direct sunlight.
- ○ Wipe off moisture and sweat as soon as possible by gently blotting them up with a dry cloth.
- ○ Do not expose the watch to direct sunlight for a long time.
- ○ Please take care when wearing a watch with light-colored band, as dirt is likely to show up.
- ○ Refrain from wearing a leather band watch other than Aqua Free bands while bathing, swimming, and when working with water even if the watch itself is water-resistant enforced for daily use (10-BAR/20-BAR water resistant).

Polyurethane band

- ○ A polyurethane band is susceptible to discoloration from light, and may be deteriorated by solvent or atmospheric humidity.
- ○ Especially a translucent, white, or pale colored band easily adsorbs other colors, resulting in color smears or discoloration.
- ○ Wash out dirt in water and clean it off with a dry cloth. (Protect the watch body from water splashes by wrapping it up in plastic wrap etc.)
- ○ When the band becomes less flexible, have the band replaced with a new one. If you continue to use the band as it is, the band may develop cracks or become brittle over time.

Notes on skin irritation and allergy

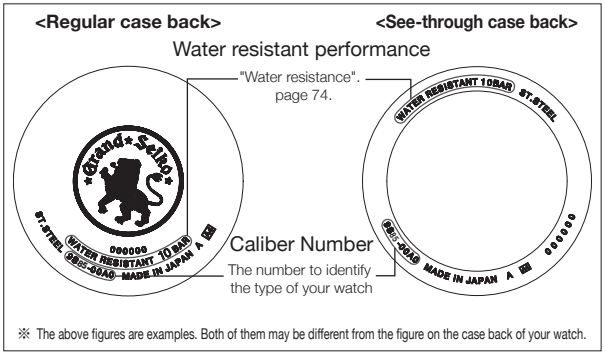
Skin irritation caused by a band has various reasons such as allergy to metals or leathers, or skin reactions against friction on dust or the band itself.

Notes on the length of the band

Adjust the band to allow a little clearance with your wrist to ensure proper airflow. When wearing the watch, leave enough room to insert a finger between the band and your wrist.

English

The case back shows the caliber and performance of your watch



※ The above figures are examples. Both of them may be different from the figure on the case back of your watch.

Water resistance

Refer to the table below for the description of each degree of water resistant performance of your watch before using.

Indication on the case back	Water resistant performance	Conditions of Use
No indication	Non-water resistance	Avoid drops of water or sweat
WATER RESISTANT	Water resistance for everyday life	The watch withstands accidental contact with water in everyday life ⚠WARNING Not suitable for swimming
WATER RESISTANT 5 BAR	Water resistance for everyday life at 5 barometric pressures	The watch is suitable for swimming.
WATER RESISTANT 10 (20) Bar	Water resistance for everyday life at 10 (20) barometric pressures	The watch is suitable for diving not using an air cylinder.

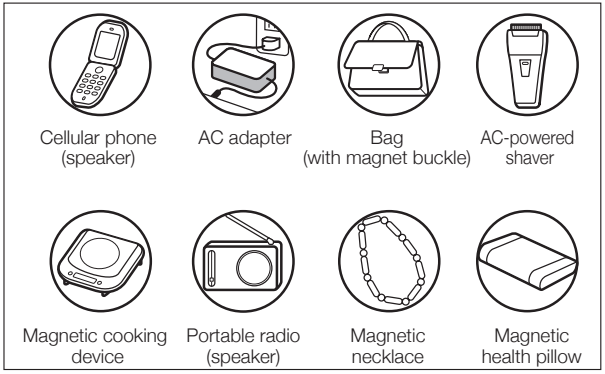
Magnetic resistance (Magnetic influence)

Affected by nearby magnetism, a watch may temporarily gain or lose time or stop operating.

Indication on the case back	Condition of use	Certified level
No indication	Keep the watch more than 5 cm away from magnetic products.	4,800A/m
	Keep the watch more than 1 cm away from magnetic products.	16,000A/m
MAGNETIC RESISTANT 40000A/m	The watch can maintain its performance in most cases where it is brought close to (at least 1cm spaced from) magnetic products not only in normal daily life circumstances but also in a special work environments.	40,000A/m
MAGNETIC RESISTANT 80000A/m		80,000A/m

※ A/m (ampere meter) is the International unit (SI unit) for indicating the magnetic field.

Examples of common magnetic products that may affect watches



If the watch becomes magnetized and its accuracy deteriorates to an extent exceeding the specified rate under normal use, the watch may need to be demagnetized. In this case, you will be charged for demagnetization and accuracy readjustment even if it happens within the guarantee period.

The reason why watch is affected by magnetism.

The built-in balance spring is provided with a magnet, which may be influenced by a strong external magnetic field.

English

Lumibrite

If your watch has Lumibrite

Lumibrite is a luminous paint that is completely harmless to human beings and the natural environment; containing no noxious materials such as radioactive substance. Lumibrite is a newly-developed luminous paint that absorbs light energy of the sunlight and lighting apparatus in a short time and stores it to emit light in the dark. For example, if exposed to a light of more than 500 lux for approximately 10 minutes, Lumibrite can emit light for 3 to 5 hours.
Please note, however, Lumibrite emits the light it stores, the luminance level of the light decreases gradually over time. The duration of the emitted light may also differ slightly depending on such factors as the brightness of the place where the watch is exposed to light and the distance from the light source to the watch.

※ In general, when you enter a dark place from a bright environment, your eye cannot adapt to the change in light levels quickly. At first, you can hardly see anything, but as time passes, your vision gradually improves. (Dark adaptation of the human eye)

Reference data on the luminance

Condition		Illumination
Sunlight	Fine weather	100,000 lux
	Cloudy weather	10,000 lux
Indoor (Window-side during daytime)	Fine weather	more than 3,000 lux
	Cloudy weather	1,000 to 3,000 lux
	Rainy weather	less than 1,000 lux
Lighting apparatus (40-watt daylight fluorescent light)	Distance to the watch: 1 m	1,000 lux
	Distance to the watch: 3 m	500 lux (average room luminance)
	Distance to the watch: 4 m	250 lux

Troubleshooting

Troubles	Possible Causes	Solutions
The watch stops operating.	The mainspring has not been wound.	Wind the mainspring or swing the watch for a few times so that the watch will start operating. If this action does not correct the condition, consult the retailer from whom the watch was purchased.
The watch temporarily gains/loses time.	The watch has been left in extremely high or low temperatures for a long time.	Normal accuracy will resume when the watch returns to normal temperature.
	The watch was brought into close contact with a magnetic object.	Accuracy cannot be recovered. Consult the retailer from whom the watch was purchased.
	The watch was dropped, worn while playing active sports, hit against hard surfaces, or exposed to strong vibrations.	Accuracy cannot be recovered. Consult the retailer from whom the watch was purchased.
	Inspection, adjustment, and overhaul cleaning have not been performed for the watch for more than 3 years.	Consult the retailer from whom the watch was purchased.
The date changes during daytime.	A.m./p.m. is not correctly set.	Advance the hour hand for 12 hours and reset the time and date.
Blur in the display persists.	Small amount of water has got inside the watch due to deterioration of the gasket, etc.	Consult the retailer from whom the watch was purchased.

※ For the solution of troubles other than above, contact the retailer from whom the watch was purchased.

English

■SPECIFICATIONS (Movement)

Caliber no.	9S86, 9S85
Common features	Hour Hand, Minute Hand, Second Hand, Date.
Extra features for Cal. 9S86 only	24-hour hand, Time difference adjustment function interrelated with the day display
Vibrations	36,000/hour (10/second)
Loss/gain (Grand Seiko Standard)	Mean daily rate※: -3 to +5 seconds
Loss/gain (Grand Seiko Special Standard)	Mean daily rate※: -2 to +4 seconds
Driving system	Automatic winding type with manual winding function
Duration	For 55 hours or more. ※From the state of the mainspring being sufficiently wound
Jewels	37 jewels

Caliber no.	9S66
Features	Hour Hand, Minute Hand, Second Hand, 24-hour Hand, Date.
Vibrations	28,800/hour (8/second)
Loss/gain	Mean daily rate※: -3 to +5 seconds
Driving system	Automatic winding type with manual winding function
Duration	For 72 hours or more. ※From the state of the mainspring being sufficiently wound
Jewels	35 jewels

Caliber no.	9S65, 9S61
Common features	Hour Hand, Minute Hand, Second Hand.
Extra features for Cal. 9S65 only	Date
Vibrations	28,800/hour (8/second)
Loss/gain	Mean daily rate※: -3 to +5 seconds
Driving system	Automatic winding type with manual winding function
Duration	For 72 hours or more. ※From the state of the mainspring being sufficiently wound
Jewels	35 jewels

Caliber no.	9S64
Features	Hour Hand, Minute Hand, Second Hand.
Vibrations	28,800/hour (8/second)
Loss/gain	Mean daily rate※: -3 to +5 seconds
Driving system	Manual winding type
Duration	For 72 hours or more. ※From the state of the mainspring being sufficiently wound
Jewels	24 jewels

Mean daily rate※: is a mean value of daily rates in a condition where the movement before assembly in a case are measured in 6 positions in a fixed manner under artificially controlled environment for 12 days.
Caution: Depending on conditions of use(such as normal usage time, temperature environment, and winding state), accuracy may exceed the abovementioned range. Therefore, for normal usage accuracy when it is actually used, -1 to +10 seconds (+8 seconds for Cal. 9S86 and 9S85) per day are specified as target values
※ The specifications are subject to change without prior notice due to product improvement.